

昭和 46 年

10 年のあゆみ



函館市立五稜中学校



目次

表紙 安井 孝
写真 斎藤正宏

伝統を生かそう.....	梶原 四郎.....	1
開校十周年に思う.....	池田 泰.....	2
中学校のとき.....	山崎 正吉.....	3
創立当時の思い出.....	沼山 吉之助.....	4
回想.....	藤川 光夫.....	6
回想.....	三ツ谷 毅一.....	7
十周年を迎えて.....	鈴木 義浄.....	8
想い出.....	寺下 兼代.....	9
旧職員寄稿.....		
井上 豊.....		10
阿部 光房.....		11
西谷 富士雄.....		12
平沼 靖雄.....		13
小川 智博.....		14
荻原 ハル.....		15
坂牧 達夫.....		16
渡辺 宏平.....		17
野々村 正晴.....		18
寸感.....		
笠井 敬一、千葉 和衛、石塚 孝成.....		20
武石 光正、佐々 陽.....		
菅原 昭一、土門 厚、太田 秀雄.....		21
福寿 末太郎、松井 喜一.....		
窪田 晴子、安井 孝、斎藤 正之.....		22
三上 力也.....		
桜井 恭子、竹内 巖太郎、藤原 孝一.....		23
望月 年春、佐々木 峯生.....		
富士 重雄、穀下 寛、藤崎 孝造.....		24
武田 政雄.....		25
母の会寄贈品.....		25
十年のあゆみ.....		26
教育目標.....		28
校歌.....		28
職員一覽.....		29
学校概観.....		30
校舎平面図.....		31
通学区域図.....		32
歴代校長.....		33
旧職員一覽.....		33
父母と先生の会役員.....		35
体育クラブの足跡.....		36
あとがき.....		37



昭和 36 年度開校当時の旧職員



昭和 46 年度現在の職員



学 校 長
梶 原 四 郎 氏



第三代校長
三ッ谷 毅 一 氏



第二代校長
藤 川 光 夫 氏



初 代 校 長
沼 山 吉之助 氏



当選した晩には
立派な校舎をつくります！（36年度）



古き良き時代……？（36年度）



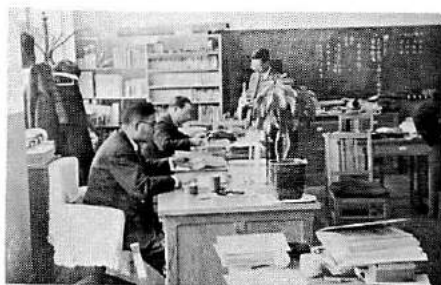
もういくつねと 完成なの？（36年度）



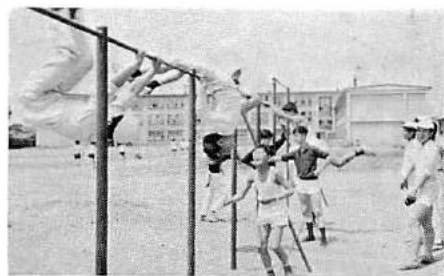
この広い畑に 建つものは（36年度）



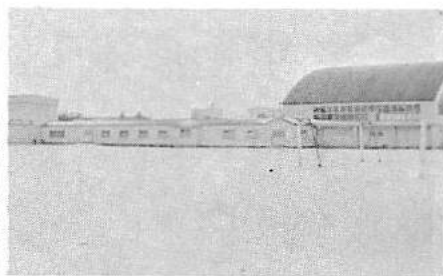
ワー！ 進んでるッー（37年度）



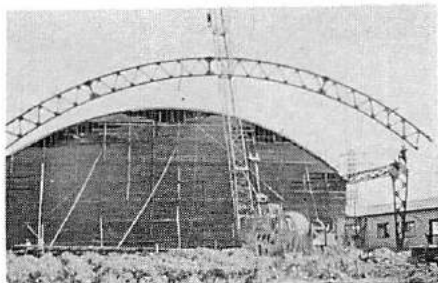
新職員室でガンバラナクチャ（37年度）



鉄棒ヨ、これからもよろしくたのむぜ
（39年度）



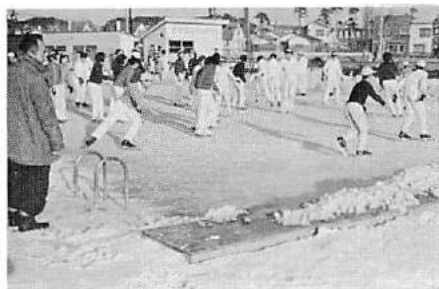
銀世界にそびえ立つもの
それは………!!（37年度）



大きい事はイイ事ダー (42年度)



緑のない校舎なんて
星のない夜空みたい!! (38年度)



今度はつりぼりでもやるか!?! (42年度)



フロ賃がうくなぁ—— (41年度)



我が五校の美しく整った前顔 (45年度)



キノコを目ざして セッセと働こう (43年度)



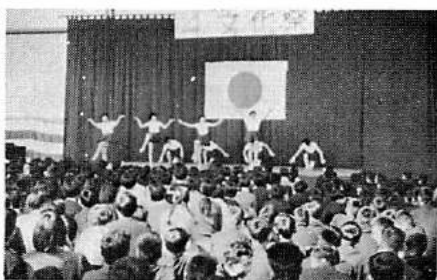
こんな時代もあったのかぁ—— (37年度)



古い人ほど新しい物にあこがれるのです
(46年度)



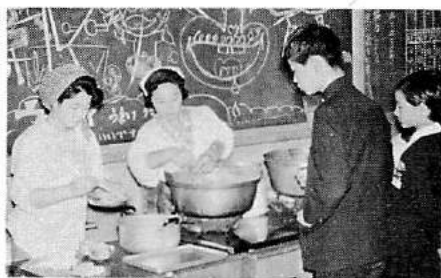
6匹の侍 本邦初公開 (41年度)



花添えるリズムダンス (39年度)



歴史的公演の幕は開く (44年度)



おばさん、ダイコンないの? (43年度)



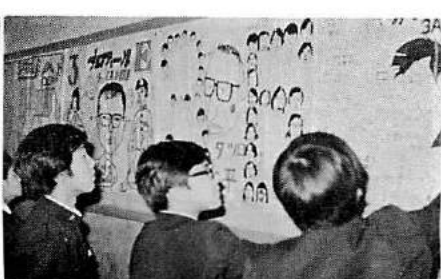
担任の顔は美人に仕上げるか (45年度)



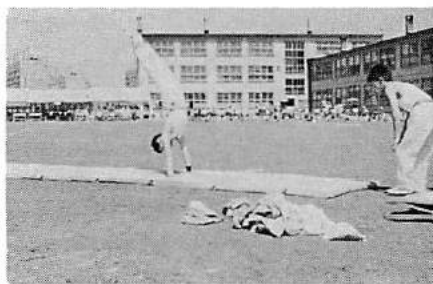
クラスのハーモニーは高らかに (45年度)



サテライト・スタジオに流れる
初恋のブルース (45年度)



先生の顔ってマンガになるナァ—— (45年度)



運動会公開演技 (37年度)



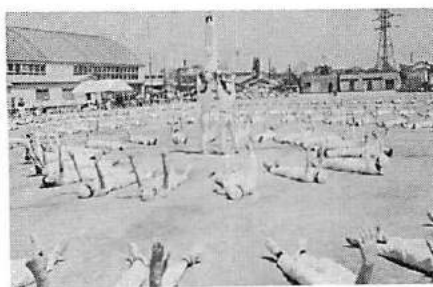
オー! なつかしや (36年度)



五稜名物! デコレーション (40年度)



楽しさいっぱい、夢いっぱい (38年度)



オー!! ビューティフル フラワー (45年度)



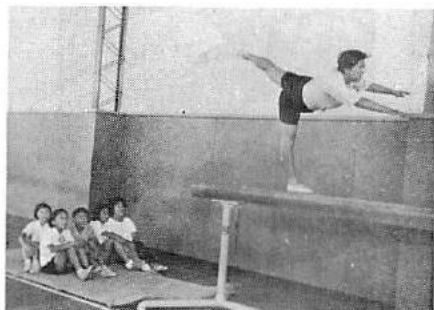
足ながおじさん、胴ながお兄さん
ワッセ、ワッセ... (43年度)



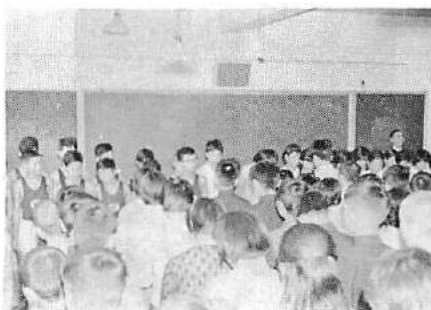
快晴です (46年度)



VTRでもう一度 (45年度)



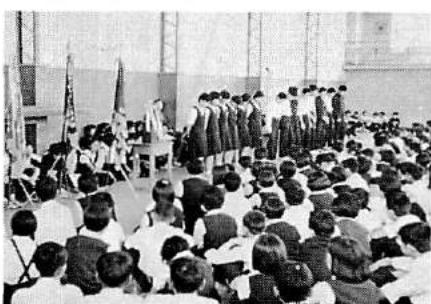
栄光の道へとただひたすらに (38年度)



選手と応援団の気持はよりそい (37年度)



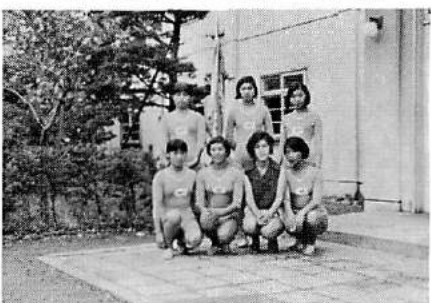
重鎮ノ 体操男子 3年連続優勝 (42年度)



喜びの涙でうるむ伝達式 (42年度)



100m11秒0 (45年度)
山本敏雄中学日本新記録樹立



王者ノ 体操女子 3年連続優勝 (44年度)



快拳ノ 野球部全道大会出場 (46年度)

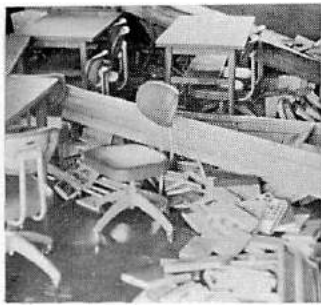


巨星ノ 卓球女子 3年連続優勝 (45年度)



地震でも落ち着くお茶をどうぞ!!

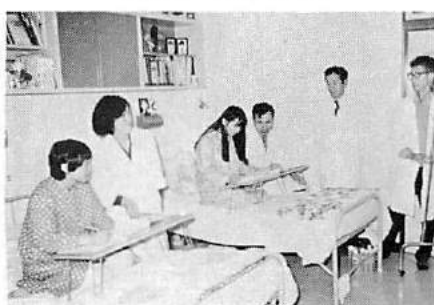
四十二年五月十六日
—
修学旅行前日の大地震



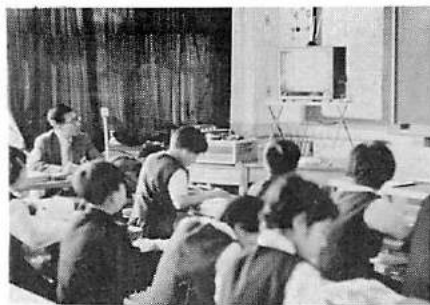
無惨ノ 十勝沖地震



発明工夫 学校賞授賞 (45年度)



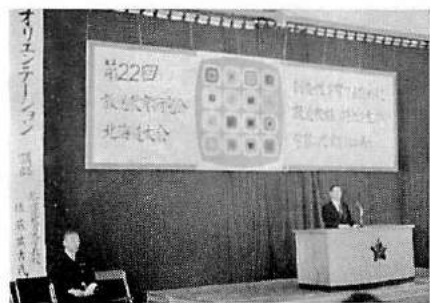
個別学習の宝庫(みどり学園) (46年度)



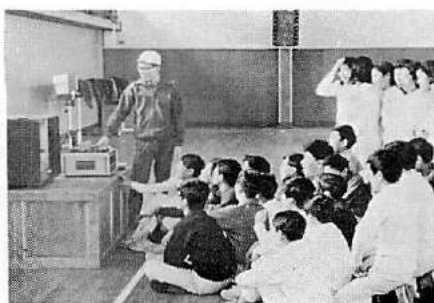
10チャンネルもあったんだネーノ (42年度)



全道道徳研 (41年度)



全道放送研 (44年度)



VTRはここでも活躍 (44年度)

伝統を生かそう

学 校 長 梶 原 四 郎

かつて広い湿地と畑地であった田家、白鳥の一带も市民の北部への移動に伴って一大住宅地に変貌しました。そして本校の新設となったのであります。その頃は戦後の混乱も落ち着き、経済的にもやや立ちなおった頃であつたとはいえ、まだ市の財政状態からは、その整備も満足できる程スピーディーなものではなかつたのであります。ことに田家分教場時代の一年目は大川中、中央中旧校舎の一隅に間借りしての生活であり、その年の十二月、新校舎に移つたときでも建物は立派でも設備は少なく、校地内の整備にも手がつけられていない状態でありました。その中で当時の生徒、職員は沼山校長を中心に一致団結して校舎内外の整備に当たりました。

教育委員会の方々もその整備完成に大きな努力を傾けてくださいました。

P.T.A.の方々も初代鈴木会長を中心にして、学校の整備と生徒の学習、生活の向上に大きな援助をしてくださいました。

本校が今、翠にかこまれ、充実した設備をほこる立派な学校に成長したのは、これらの多くの方々の大きな努力の賜であります。

また創設の頃本校に学んだ先輩諸兄は、校舎内外の整備に汗を流しながら、その勤労と学習、スポーツ、そして日常生活を見事に調和させ、輝かしい五稜の伝統をつくりあげたのです。地域にはそれぞれその地域特有の気風があるものです。一般に古い歴史をもつ社会は情緒性が強く、伝統を守ろうとする意欲が、生活を更新し、改革しようとする動きが少ないようにみられます。しかし、そこには社会に最も大切な人間同志のつながり、隣人への愛情が強く受け継がれています。

新興地は古いものをもっておりません。常に合理的に、しかも理論的に改革しようとする若さがみられます。それは情緒的生活というよりは論理主義に立つた生活とでも言うことができるでしょう。しかし反面、人々の間の情的なつながりが弱く、互いに競争し、互いに孤立する傾向をみせているように思われます。膨張を続ける大都會での「大衆の中の孤独」ということがそれをあらわしています。このようないろいろな社会像の中で、五稜の校区の最も大きな特徴はこの古くからの伝統の中にあるよいものと、合理主義、論理主義のよさを程よく調和させている地域社会だということでありましょう。

今や社会はあらゆる面で人間性の喪失と合理主義、能率主義の行きすぎを反省しております。そして人間性豊かな、隣人愛の強い、しかも科学

的または芸術的に高いものを兼ねそなえた人間を求めております。

本校はまだ若い学校です。先輩もようやく社会人として一人立ちできるようになったばかりです。しかし、本校には優れた地域の気風があります。先輩の築いてくれた立派な伝統があります。本校に学ぶ生徒がこの二つのよい面を十分身につけて立派に成長し、次の時代の正しい発展に大いに貢献できる人として育っていくことを願ってやみません。

われわれはここに本校創立十周年記念誌を刊行するに当たり、心を新たに、このすぐれた地域と伝統の中で人間性と科学性を兼ねそなえた立派な五稜の生徒、五稜の卒業生を育てることに互いに手をとりあつて努力していきたいと思ひます。

最後になって申し訳ありませんが、この冊子を刊行するに当たり、玉稿をよせられた多くの方々、編集のために日夜努力を惜しまなかつた委員の方々に心からお礼を申しあげます。

開校十周年に思う

PTA会長 池田 泰

五稜中学校が事実上発足したのは、昭和三十六年四月一日であり、大川中学校田家分教場としてでありました。丁度、私の長男も入学したので関心がありました。戦後色々な条件で函館の人口の北東部移動が始まり、五稜郭から柳町、更に田家町と、市営、道営住宅が建設され、その上、戦後出生率最高の年の子供達の中学進学する年であり、五稜中学の新設が決定されたとの記憶があります。既に中央中学は新校舎での授業がなされておりました、重砲連隊の兵舎を改造した取り壊し前の中央中旧校舎での間借り授業であり、春四月、雪のちらつく様な日は古い建物の隙間風に子供達は唇を紫にして帰る日もありました。この年の運動会は五稜郭公園で、学年のみで生徒数が少ない為にプログラムが組めず、お母さん方が大張り切りで走ったり、生徒と一緒にダンスをしたりなど、なかなかものでした。一方、田家では新校舎の建設が進み、学校から帰った子供達が連れ立って工事を見に行く姿も見られる様になり、校舎も大体出来た十二月に、生徒達も加わり移転作業が行なわれて、十二月二十一日には移転式が行なわれました。今では校内の飲食はできない様ですが、その日は喜びに溢れた沼山主事を中心に、先生方、父母が楽しく祝いの盃を交しながら大いに歌ったもので、大らかな当時は懐かれます。そして翌三十七年四月一日に正式に五稜中学校となり、今日に至りました。

その頃、日本は、戦後の荒廃期から漸く立ち直つて来た頃であり、十年一昔と言いますが社会環境はこの十年間、更に所謂高度経済成長を遂げ、

経済大國米國から円切り上げを要求される様になりました。開校当時から学校歯科医を受け持つて来た立場からも見られることで、砂糖の消費量と文明の発達とは比例すると言われております。更にむし歯の発生とも比例すると言われております。開校時入学した生徒は二十三年、二十四年に生まれた子供達で、主食も満足な時代でなく、まして満足の菓子類もなかった代わりに、口腔検査では今から考えると嘘のように齲歯が少なかったのは事実でありました。経済成長とともに各種の公害も話題になり始め、学校にはプールもできましたが、これから屋外運動場とともにいかに公害から守るべきかも関係者の使命の一つになってくるであります。

六三三学制を終え、更にストレートに大学を卒業した本校第一回生の子供達は、本年大きな期待を受けて社会に巣立ち、中学又は高校から一足先に社会に巣立った子供達は夫れ夫れに就職後七年から四年を経て職場の中堅となっており、この十年の意義の大きさが感じられる次第であります。この十年間、教育界も中学校に引き続く中等教育としての高校教育について色々な戸惑いから昭和四十一年に大学区制に踏み切り、更に最近の中学校生徒の進路状況から改善を要求され、中学区制に移行の動きが起こり、高校入試科目としても、英・国・数の三教科に減らす動向がでましたが、これから中学校の立場として色々な問題が派生してくることは必然であり、五稜中学校十一年に向かつて、PTAとしても新しい気構えが必要となります。

中学校のとき

同窓会長 山崎 正吉

五稜中学校が創立されてもう十年、朝夕家の窓越しに見る校舎の、畑の中からできてきた過程が、思わず脳裏に再現されるのを覚えます。

ちょうど我々二回生を迎えるようにしてできた校舎、その真新しい教室で勉強できる喜びに、胸をはずませて迎えた入学式は、通し教室で挙行されたものでした。当時を思い返すと全く無い尽くしで、有るのは教室だけといってよい状態でした。特に、不自由な思い出として記憶に残っているのは、体育館がなかったことです。それで、体育の時間は通し教室で、できる運動といえば、柔軟体操・マット運動・跳箱という程度でしたし、又、雨が降り続いて、グラランドにも出れずといった時などは、あばれ盛りの我々にとつて、エネルギーのはけ口を捜して、困ったものでした。

グラランドはというと、地面を平らにしただけの所で、運動会を控えた頃になると、体育の時間は、土方作業の時間に早変わり、トラックで運ばれ

てきた赤土を、グラウンドの要所要所にリヤカーで運んでまき、そして、小石ひろいに、ローラーひき。こんな苦勞があつたからでしょうか、グラウンドを受取るという気持ちが生徒全体に行き届き、水はけが悪かつただけに、雨が降った後はよく禁足を申し渡されたのに、その禁を破る者がいなかったのは。

さて、施設・設備が無いことに起因する不便や不自由は、体育の時間のみに限つたものではありませんでした。音楽史はあるけれどレーコード鑑賞のない音楽の時間、隣接するクラスの授業を妨害した技術の板金作業の時間等。理科の時間についても、もちろん実験室はなく、化学は教室で道具を持ってきた、先生が実験をして見せて下さいました。その時の、試験管や薬品を取り扱う先生の姿が、まるで貴重品でも扱っているかのように見え、今でも印象に残っています。

幸いなことに我々が一年の時に体育館の一部が、そして、三年の時には、技術室、理科実験室、家庭科室ができました。体育館の他は、できたのが遅かつたため、一回生ほどではありませんが、十分にその施設・設備の恩恵に浴するというところまではいきませんでした。しかし、学習・文化活動においては各種に入選し、運動・体育活動においても、陸上競技部・卓球部の中体連における活躍等、我々が後輩に誇れるだけの成果を収めることができたのは、何よりもうれしかった。顧みて、当時あれだけの成果を取ることができたということは、諸先生の熱心な御指導の賜物であつたと同時に、初代沼山校長先生が機会あるごとに口にしておられた「どううまく時間を使うことがよいか。」という問に対する我々の答であつたような気がします。

創立当時の思い出

初代校長 沼山 吉之助

五稜中学校創立十周年記念誌を編集するから寄稿するようにとのご指示、誠に有難度くお礼申し上げます。

光陰矢の如しと申しますが、早くも十年たつたかと思うと、本当にびつくりします。記念誌を祝し、衷心からお慶び申し上げます。

名門校で通つております、中央中学、大川中学の通学区が、田家分教場の学区となり、入学させられたのですからなかなか大変でした。やるせない父兄の気持、新しい学校への不安、すべて学校にのしかかってきました。吾々職員は、この父兄の気持を受け止め、協力一致、一丸となつて

誠心誠意教育活動に取り組みました。然し悩みは深刻でした。二校に分かれ、時計の振り子のように、行ったり来たりこの体制では、真の信頼感が生まれてこないということです。全校生徒との血の通い合う生活が望まれました。福井校長の意見を聞きながら、鈴木義浄会長と早急に、中央中学校校舎に七学級全部収容出来ますよう善処を懇請しました。内山教育課長の理解あるお骨折りによりまして、萬事うまく解決、七月に移転出来ました。物置用の、ボロ教室でありましたから、隙間、穴だらけ、床板の間から縁の下が見える有様でした。全校挙げての、床洗い、紙張り、床板の修理作業等、どの生徒の目を見ても、生き生きと輝いていました。明るい教室に仕上がり、楽しい勉強が始まったのです。

グラウンド全体の広さのところが、二米余も低かったのです。当初眺めたときには一寸やそつとで整地が出来そうにもないので当惑したものでした。幸いにも、下水道課が引き受け、整地することに決まり、三十七年六月に完成、全校父兄挙げて楽しい運動会が出来ました。更に引き続き排水暗渠が施工され、今のグラウンドが完工しました。中体連の大会で、すばらしい戦績が新聞に発表されるたびに、勞務者や、色々とお世話になりました方々のことが思い出されます。

体育館の建設によって、グラウンドの地を失うことは、五稜中学校の将来のため、悔いを後世に残す事になりますので、なんとしても敷地を欲しかったのですが、うまく行きませんでした。市教委も色々と苦慮されておりました。工事入札が迫った五月に、小島教育長からグラウンドに建設するより仕方ない事を聞かされた時には、駄目かと思いましたが、暫時の猶予をお願いしまして、急遽鈴木会長と、市会議員の石畑常四郎氏を訪問、地主の吉岡チヨ様への交渉、お骨折りを懇請しました。この交渉が成功しまして、体育館が今の場所に建設されたわけです。尚吉岡チヨ様のお話によりまして、お子息様戦死後、お孫様の為に買い求めて置いた土地であるとのことでした。五稜中学校のお役に立つならばとのご返事に頭が下りました。ここに吉岡チヨ様、石畑常四郎氏に対し滴腔の感謝を捧げます。

五稜中学校の校舎建築については、市教委、建築課とも、現場の希望意見をよく聞き、大巾に取り入れて設計して下さいました。幸わせであったと思っております。学校では、それぞれの専門部で研究したものを、更に全体で討議してから、学校の希望意見として、校長が交渉に使い歩きました。だから校舎の隅々まで先生方の魂が宿っておるわけです。

最後に、御世話になりました多くの方々に感謝申し上げ、五稜中学校の益々発展されることを御祈り致します。

回 想

第二代校長 藤 川 光 夫

過去には感謝、現在には信頼、将来には希望ということばがあります。

五稜中学校二年余は私の教師生活にとってよき思い出が多く、八百余名の生徒諸君、同志同行の士としてともにおつとめいただいた当時の教職員、函館市の末弟中学校として誕生し、草創期にあった本校に強い関心と熱意をもたらされた父母各位、それぞれに思い出がつきないのです。

学習やクラブ活動に、教室、体育館、グラウンドで精一ぱい努力していた生徒諸君の姿、学校の教育活動や施設整備に強い関心を示され、積極的に援助くださった父母各位、運動会、文化祭等の行事に必ず参加くださった母の会の皆様、そのお姿や活動のひとつこまひとつが思い出のパターンのです。

いろいろな関係で時折り懇談できる阿部光房、坂牧達夫、菅原昭一の三先生とはお会いすると、あの頃、あの時のことが話題となるのです。ブルや野球のバックネットの設置、理科の整備、美術室の新設のことなど、こまごまと話はつきないのです。

時折り卒業生の方から音信をいただいたり、話題になったりすると、当時の姿を思い出し、この頃はどのようになられたであろうかと推察し、想像していつそう懐しさを増しています。

教育現場に復帰し、百名余の教職員とともにし体不自由児の教育に直接して、教育とは何かと、原点に立っていま一度考えてみる必要感をもちたされています。

障害を背負いながら「あきらめず」「くじけず」「まけず」の心情をもって不治と承知しながらも生活に、学習に頑張る生徒たち、健常者であつてもと考えさせられるような困難なことに突き当たつても堂々と乗り越えて全力前進する姿。普通学校で生活する諸君がこの子らのような努力をするならば——考えさせられることが多いのです。

私が五稜中学校に在職当時、中体連行事に参加した諸君が、陸上、体操、卓球その他の競技に優秀な成績をあげた思い出がありますが、その時の諸君のあの練習があの成果をもたらしたのであるうと考えさせられたものでした。

本年度中学校野球大会に五稜中学校が地区で優勝し、全道大会でも堂々とした試合ぶりを展開し、りっぱな成績であつたということを、連日観

戦された道岡村教育長から後日聞かされ、人は変わっても伝統は生きつづけている感を深くしたので。試合当日、私は東北、北海道の関係校長協議会で秋田市に出張不在のため応援できなかったことが心残りです。

開校十周年、時は流れ人は変わっても、学校は、そしてその教育は永遠につづくのです。現在の生徒、現在の関係者各位に心からの信頼をよせ、本校がこれを契機としていっそう充実発展されますことを念じます。

回 想

第三代校長 三ッ谷 毅 一

昭和四十二年六月、私は十五年ぶりで教育実践の現場に舞いもどりました。その実践の現場が函館市立五稜中学校であったことは、私にとつてはこの上ない幸運なことでした。

何となく元の水槽にもどった魚のようないい気持ちに加えて、肩の荷がおりたようなほつとした気持ちで、足どりも軽く初出勤した日のことを、今でも生き生きと思ひ出すことが出来ます。

三十九人の職員と初対面の顔を合わせて、「今日から、私を入れて四十人の職員が、この五稜中学校を舞台に、一体となつて教育実践の成果をあげていくのだ」という覚悟に似た心境に加えて、「袖すり合うも他生の縁」といわれるこの世の中で、今日からできたいわば新しい私の弟分、妹分の仲間たちと、人間らしい温かい心の通い合う仲間になり合つて、教育実践にたずさわることをたのしみ合う、そんな場を築き上げたいものだ」というねがいでいっぱいであつたのを覚えてます。

五稜中学校の先生方が、教頭以下みんな一人一人優秀な能力を持った一騎当千の先生方の集まりであることは、市教委在任中からよく理解していたのですが、赴任してみても一層そのことが認識させられたものでした。学習指導にも、クラブ活動や、生活指導等にも、運動会、修学旅行などの学校行事にも、一人一人がそのもつ全能力をあげて一日一日を充実した指導に明け暮れる姿には、校長としてはただ感謝あるのみでした。ですから、私の在任の時期は、五稜中学校開校以来、営々として内に積み上げて来た成果が外に大きくあらわれ、職員といわず生徒といわず、その意気込みが最も高まっていたときだったと思います。朝会のとくに生徒たちに「五稜中学校の黄金時代に在学した幸運をよろこび合おう」と話したことがあつたのも、奇妙な名前の干魚をたたきながら勝利の美酒にひたつたことのあつたのも、今はなつかしい思い出です。

たった一年四か月という短い在任期間でしたから、五稜中学校のこれから歩む悠久な歴史のほんのひとときで、数のうちに入らない程度の期間でしかなかったことは、私にとって最も口惜しい残念なことでした。

昨年欧米の教育事情を視察して来て、日本の教育現場に対してもいろいろな感想をもちました。五稜中学校のような学校で、先生方と職員室の休憩コーナーのソファによって、伝統的な日本教育の改造などについて語り合い、少しずつでも実践に移しあつて行くというような機会が欲しいなあというのが、今の私の最も切実な願いでもあります。

ともあれ、私は五稜中学校で過ごした家族のようなうちとけた仲間たちとの生活を生涯忘れないと思います。

終りに五稜中学校の益々発展することを祈ります。

十周年を迎えて

初代PTA会長 鈴木義浄

五稜中学校が創立十周年を迎える。開校の日がついこの間のようにも思えるし、ずつと遠く過ぎ去った日のようにも思われる。

新設中学校としては初めての鉄筋コンクリート建築の校舎である。しかし、屋体も特別教室も持たない、辛うじて授業ができる程度の最少限の設備である。だがその後新設校のいづれもが辿った運命を思えば、余り文句も言えないことでもあった。

大川中学校分校としてその一部は中央中学校に間借りして通学していた生徒諸君にとって、とにもかくにも独立校舎を持った喜びはどんなであったらう。

ま新しくすがすがしい校舎の通し教室で行なわれた開校記念式典では、生徒、先生、父兄一般来賓のすべてが喜色を満面に浮かべて祝った、その日の光景が今でもまざまざと目に映るようである。そのときはからずも、PTAの初代会長を仰せつかった私にとっては、他の役員諸氏も同様であったと思うが、今後学校が当面するだろういろいろな困難な問題を想起して、責任の重さと困惑とがいつしよになった一種異様な胸のたかまりを感じたものであった。

それにもまして不如意な教育設備のもとで、また新設校の面目にかけて教育効果を期待された、初代校長の沼山先生を始め諸先生がたの胸中を思い、お気の毒とさえ感じたものである。

その当時父兄関心の的であった高校受験の問題など、父兄にもまして先生方の気苦労がどのようなものであったか想像にあまるものがある。

こうして苦悩のスタートを切った五稜中学校の歴史も、その後校長先生を中心として渾然一体となった先生方の熱気が、屋体教室の増築等の設備の充実と相まって着々とその効果を發揮して今日の五稜中学校が築きあげられたことを心から嬉しく思っております。

卒業生の諸君の中にはすでに社会人として活躍せられている方も、或は大学に学んでいられる方もおられると思いますが、人間社会発展のかけにはこんな人間の労苦がひそんでおることを感じて頂ければ、もってそれらの労苦も瞑されるものとなるでしょう。

学校には自然に校風と言うものが形成されますが、それは先生と生徒によって長い年月の間にかもしだされて行きます。それがどのようなものであれ、人間の美しさ、好もしさ、勇ましさ、というようなもので形成され、やがて伝統となり、母校を呼び覚ますようなものになって欲しいと思います。

最後に、至らない私を助けて曲りなりにも職責を果たさして頂きましたPTA役員の又坂氏、角田氏、棚池氏、及川氏等の方々に衷心から御礼を申し上げます。

想　い　出

第五代母の会会長　寺　下　兼　代

「三年たてば三つになる!!」のたとえの如く、五稜中学校もここに十周年を迎えられ、多くの卒業生も送り出し、又今年は十周年に花を添える如く、野球チーム等の花々しい活躍の様子を新聞、テレビ等で拝見させて頂き、益々意気軒昂と大いに意を強くし、五稜中学校に子供を学ばせた事に誇りを感じさせられております。

思いかえしてみますと、何はともあれ子供を中学校においた時代は、親も若く、教育、生活などに無我夢中で子供と共にとりくんでいたのです。親が真剣にとりくんでいれば、その心はいつか子供の心に伝わるというものです。ある時は甘やかし、ある時はきびしくしかり、そんなにおこつても相手は子供なのにと笑われた事もありました。でも今にしてみれば「鉄は赤いうちに打て」の言葉、私は今でもその通りだと信じております。断絶と言うこと!! それは話し合いのないところにのみ生じ、親の気持がわからない、子供の気持がつかめない、こんなことはいつの世代にもあることだと思えます。わからないということがわかっただけでも、相手に注意を拂っていることであり、よい事だと思えます。

若いお父様やお母様方には、ここに十周年を迎えるにあたり再び心を新たにして、親としての責任の立場に立って、学校のこと、子供のことに大いに関心をもち、時代を少しでもよい方向に向かわせるために、一人一人が頑張ってもらいたいと思えます。

旧職員寄稿

田家分教場より五稜中学校への

移転当時の思い出

井上 豊

新鮮なるおいのとりまく若々しい五稜中学校の当時の思い出を述べてみます。

昭和三十六年五月、大川中学校田家分教場として大川中学校内に四教室、中央中学校に三教室借用、計七学級で発足、生徒は八幡、千代田、柏野の三校から集まった。

四月末にはPTAの結成準備委員会が開かれ、総会がその後持たれ、会長には鈴木義浄氏、副会長に又坂、谷岡、及川の三氏と監査に棚池、石田の二氏というメンバーで発足。

通学にも交通路電車通りをわたるので集団を作り登校下校をし、事故防止に万全策をとった。当時は借り家に入った生徒のようで、学校にも施設備品は何もない状態で、大川中と中央中より理科器具、図書教材も借りてやった。二学期より中央中の兵舎の跡の建物を借用し、朝会等は二間廊下を使ってやった。

やがて出来る新校舎への移転を楽しみに生徒も毎日の勉強にいそし

んだようです。

その年の十二月初旬、新校舎への移転は待ちに待ったものの、移転の際、机、腰掛、事務用品等教師と生徒と一体となって喜んで運んだ。十二月十五日には第一期の工事検収があり、新校舎では階下の通し教室が差しあたり集会の部屋として体育の時は申すに及ばず、内祝の移転式もここでやった。

三十七年三月六日、五稜郭の櫻をモチーフにした校章が制定され、体育館はその年の十二月二十六日に、第一期工事の検収が行なわれており、ゲビオンと言う、やや反響のある天井は気になったが、東北の方で建築専門家が研究して行なった方式で心配はないとのことであった。

当初は広さがこの二倍となると言うことで、五稜は東部のスポーツセンターとなるなど色々の思惑があったようです。

第二期工事には職員室、用務員室、校長室、事務室、宿直室、相談室、教材室、職員便所が出来た。(三十八年三月二十七日検収)

相談室は兼図書室と母の会の打ち合わせにも使用されました。

校旗と校歌は三十八年十月十日に制定され、亀田八幡宮へ生徒会の代表と人魂のため参詣したのもこの頃でした。

校庭の敷地を増すため、隣の地主、栄町の〇〇さん宅まで買収運動のためPTAの役員と校長、教頭で夜分交渉に出かけたこともありました。

校舎の第三期工事は、理科室、家庭科室、展示室、ミシン準備室の完成で、三十八年十二月二十四日検収を行ないました。

理科室は坂牧先生が施設配置の図面を作り、千葉先生の努力によって、

標本類も集まり、準備室の机、戸棚も整って、いよいよ次年度より（三十九年度）使用可能となった折、私は若松小学校教頭転出の内幕があり、發定途上の学校のため去りがたい気持ちには充分あったが大局的視野より土門先生に残余のことは引き継いで今後の皆様の發展、健闘と栄栄を折りつつ若松小学校へ向かった。

あの当時、三十八年八月東高等学校より受領したアカシヤ等数本を校庭の隅（現在のブルのある位置）に植樹したものはどうなったか、思い出されることです。

思い起すといふ

阿部 光房

入学式がミソレで、運動会はドシャ降り、遠足ときては一発でやった記憶がさらない。なんという学校だったんでしよう。

よく人が言いますが「校長先生のせいでしょう」と。たしかに水に縁のある沼山校長先生ではありましたが、私はあながちそうとばかりは言えないと思っていました。

それというのは、雨が降って来るのがわかつているのに反対もせず、執行してはドシャ降りの中で泰然をよそおっているばかりか、一向苦にもしないで笑みまで湛えている先生方の様は、本当に解せない感じを抱いていたものでした。ちなみに名前で水に縁のないのは私ぐらいで、沼山、平沼の両沼、西谷、永谷の両谷、井上、松井の両井、それ

に日浦の各先生に至っては、その元凶であったと思っています。自戒をすめる日を逸して、はや十年の才月が流れてしまいました。

五稜中学校の生徒は、運動が大変好きでした。分校当時は準備運動で千代ヶ岱野球場の外壁を回ること二・四回は女子も平気でしたし、新校舎に移ってからは亀田富岡ガード往復後グラウンド二・三周ということは体育の先生が見ていなくてもチャンチャンとやっていたものでした。

全市中体連大会初出場の際、ツートンカラーのユニホームは斬新でしたし、本当に清新の気を吐き、話題をさらったものでした。そして私のデザインした中体連旗のもとGのマークが突っ走り、五稜、五稜の歓声でうまつた陸上競技当番校大会に、男、女の総合優勝は終生忘れることができない一ページです。大会第一日を終わりグラウンドに夜営をした時、藤川校長先生が大風呂敷にビールとつまみをドッサリ背負い、野々村、三十刈、藤原、永谷の諸先生が自分で差し入れた分だけ全部飲んで帰ったことを思い出します。夜空に輝く星の下でのカクテルは、とにかくおいしかったものです。

分校への通学区域変更問題で父母との話し合いや、新校舎建築で市教委との交渉で見せられた沼山校長先生の粘り。

大風呂敷の藤川校長先生が、ブル設置決定までに見せられた慎重さと。

疾風迅雷、五稜の文化の灯を掻き立てて翌年秋には去られた三ツ谷校長先生に驚いたものでした。

私は、やったなあという感慨を懐き、生徒は、やられたなあという想い出も多くあることでしょう。しかしお互いに五稜時代を心の底に深

く刻み込んだと思っています。

アット過ぎた十年でした。気がついてまわりを見まわしたとき、四十数名の先生方が入れ代わり、期せずして満州帰りの二人が残っていました。そして互いに頭に手をやり頭髮のあるのに心の休まるのを覚えてたものでした。

十年一昔を省みたとき、新設校に自由な風をおくり、好きなことをさせて下さったのは父母であり、地域の方々であつたと思います。そして子供達は、特色のある五陵の中で美しく、逞しく育つていったと思います。

校舎、教材が貧しくスタートした五陵中に、父母、教師、子供、地域が手を取りあつて通わせあつた心の温もりが五陵の伝統と歴史を培つたものと考えています。

分教場の思い出

西 谷 富士雄

創立十周年を迎えた五陵中学校に、心からおめでとうを申し上げます。

さて、開校の昔をしのび、分教場当時をふりかえつてみたいと思います。

十年前田家分教場は大川中学校に三学級、中央中学校の旧校舎に四学級と分散して開校されたのです。時間割は各教科二時間続きの変則的なもので、私たちは二時間ごと二校の間をバイクや自転車で移動し

なければならぬので、雨の日など大変な苦勞でした。

大川での新任式を終わり、中央校舎の職員室に勢ぞろいしたのは沼山主任以下、教員は井上、阿部、平沼、千葉、菅原、松井、日浦の各先生に私を加えた九名でした。

荒廃してあき家同様の仮校舎に、気心さえ知れない新任者を集め、これから一体何をせよというのだらうかと、分教場のゆくえをあやうんだのは私だけではなかつたのでないでしょうか。

二日後に永谷先生が着任しました。そして沼山主任の号令のもと、「先進校に追いつけ、追いこせ」をあいことばに、猛烈教員の校舎設備大作戦の火ぶたがきられたのです。

最初に遭遇した難関は予算問題で、四十万円そこそこの予算を各部納得のいくよう配分するのは至難なわざなのです。体育施設に六百万円の要求を掲げた阿部先生の大胆さに驚嘆させられながら、長い長い激論の末夜半ようやく妥結してホットしたものです。

夏休みが終わり、五陵郭公園で催された最初の大運動会は、ちょうど鈴木PTA会長の挨拶が始まるころ、車軸を流す大雨に襲来され大混乱になってしまいました。それ以来五陵の体育行事は雨に縁があるといわれます。

年の瀬もおし迫るころ、待望久しい田家の校舎に移転する日が来ました。中央校舎に別れを告げ、新校舎に向かった生徒の団は入口で立往生したものです。「先生、学校に上がつてもしかられませんか。」

「上靴で上がってもいいんですか。」というのです。

あの庭屋に等しい仮校舎で半年以上も過ごしてきた彼等には無理もない質問なのです。上靴で上がっても気のひけそうな立派な校舎に入

るのをためらっているのです。「君等の校舎だ、遠慮するな。」といわれ、嬉しさをかくしきれない表情で元氣に入りはじめたのです。その時私たちも「苦勞のしがいがあった。」と話しあったのを今もはつきり覚えています。

校名と校章が決まり、雪がとけるころになると、小学校を終えて本校に入る近所の子らが、毎日校舎を見に来る姿を見かけるようになりました。

三十七年四月一日、沼山主任は校長に昇任になり、野々村、藤原、石塚、成田、滝井、笠井、小川先生等を迎え、名実ともに五稜中学校として独立し、栄光の道を力強く歩み始めたのです。

思い出はつきませんが、紙面の約束がせまりましたので、五稜中学校の限りないご発展をお祈り申し上げ、むすびといたします。

ああ、田家分教場

平 沼 靖 雄

昭和三十六年四月、大川中体育館で入学式後担任として新年度の施政方針演説の最中、一天俄にかき曇り、突如轟く雷鳴、烈風豪雨至る。ああ、これ前途多難の凶兆か、将又、雨降って地固まるの吉兆か。

わが田家分教場中央校舎は、旧兵舎で旧中央中学校舎、見て旧、歩いてキュー、がっかりしてQ。テレビ映画のお化け屋敷のセットもどき。わが名譽ある帝国陸軍の魂魄ここにどまつたるか。柱は曲り、床は陥没して穴から地球が顔を出し、天井の透間から宇宙を遠望す。まさ

に天地有情。かくて字余りの名吟一句。

ボロ校舎やつわものどもが夢のあと

隣りの中央中の近代的な校舎が羨しく、横目で右を睨みながら通うので、分教場の全生徒がタメになるのではないかと心配された。が、幸いなるかな帰りは左を睨むので矯正されてまず一安心。一回生の中に目つきの悪い者がおるとすれば、それは当局の責任である。

一人で二・三教科、その上、中央校舎と大川校舎へ掛け持ち、駆け歩き。

西谷先生は難解なバズルに苦心慘たん。が、さすがベテラン、最少の労力で最大の効果をと、経済原則に則った時間割完成、自ら十九世紀の新車(㊦大昔のこと故、自転車)を駆って、軌道に乗ったアポロの如く運行。阿部先生は忍者のように変転自在、空間の存在を無視して、双方に同時に存在する如き動きに啞然。千葉先生はバイクだったか、自転車を乗り潰したか忘却の彼方だが、いずれにしても、大川中から中央中に至る市道の地固めに貢献したことは確かである。

第一回運動会。へ大空晴れて……歌い出したとたん豪雨で中止、直ちにPの役員と反省会。かくて、以来本校の運動会は風雨に付きまといわれる仕儀となつたのである。

つらつら推るに、これは当時の職員の中に、沼、井、谷など水に係ある名の職員が多過ぎたためである。蓋し、沼山校長の職員編成における最大のミスであつた。ともあれ、やり直し運動会は見ものである。一年生だけの運動会だから、一年生が出場すると座席はカラッポ。男子が出る下次は女子だから集合場で待つから座席はカラッポで、男子は女子の次だから、(ああ、疲れた。)とにかく、初めから終わ

りまで座席はカラッポということになる。この真理に敢然と挑戦したのが体育の阿部先生。九時から三時まで、生徒を疲れさせず、飽きさせず、面白く楽しく見事にやつてのけた。つまり、ガッツノキバカリガッツジャナイ……ことを証明したのである。

沼山校長は、ジャバニーズバック(③日本名風呂敷包み)を抱えて(その中に何が入ってあったか、いまだにわからない。)教育委員会・建築課・土木課へ、毎日陳情に御出勤。役所の方は、沼山校長の姿を見ると逃げ回り、役所が空になった?という伝説が残っているほど、心魂を傾けて事に当たられたことを明記しておく。

遺憾ながら、創立当時の二・三の話題より紹介できなかったのは、永谷編集長が原稿の割り当て厳守を強要したからである。

わがまま二年

小川 智 博

昭和三十七年三月の頃、弥生小学校二年一組の担任として楽しい毎日でした。突然夏井校長に呼ばれ、五稜中へ………という話。今では信じられないぐらい、転任しないと頑張りました。しかし、阿部先生(当時、お顔は知っていたけれども、話した事はありません)からのお声がかかりで、とにかく一度、五稜中へ来て、話してみようではないかということで、たずねました。校内を案内していただき、話を聴いているうちにすっかりその気になってしまい、決心致しました。

当時は、体育館はなし、グラウンドは使用不可能で、通し教室で跳箱、

マット運動、又、野外では、現在の阿部先生宅付近の芝生での体操が主で、あとは、初代校長の名前(沼山先生)と同じグラウンド整地の、明け暮れでした。このような状態でのクラブ活動は、陸上競技、バレーボール、卓球、体操等が主で、三年目に、それぞれ優勝しております。特に、バレーボールの優勝は劇的で、今でもあの時の状況が想い出されます。又、陸上競技においては、砂場もなく、現在の技術教室の所に土俵で砂場を作り、練習したものです。二年目に女子優勝、三年目に男子優勝、総合優勝は、それぞれ、一点差、〇・五点差で涙しました。ここで、岡本先生へバトンタッチしましたが、その発展をみるにつけて、目頭があつくなりました。

当時の先生方は、大物ぞろいで、小さな事にくよくよせず、「我々の手で、五稜の伝統を作るのだ」という気概があり、実行しました。特に運動会は、阿部先生を中心に計画をねり、新しい着想ということでこりにこりましたが、何度も雨で流され、その度毎に天気上げをして基盤を作り、時間はかかりましたが、いつも快晴で、父兄の皆様と楽しい一時を過ごしました。

順みますと、小生の今日あるのは、五稜中学校時代の諸先生方の御指導の賜物と感謝の気持ち一杯です。何事も個人の考え方を尊重され、「失敗したならば、我々が責任もつから思う存分やってみる」という親心で、どんどん発展させていただきました。

東高校へまいりまして、七年目ですが、苦しい時には五稜中時代を想い出し、勇気づけられております。又、生徒の指導にあたっては、五稜中卒業生と知ると弟妹のような気がして、楽しく、効果的に指導できます。問題生であっても、必ず立ち直つてくれます。クラブ活動

については、全く知識のないハンドボールの指導をしておりませんが、全道で二度三連勝し、又、全国大会では、必ず一回戦は勝ちます。最高、準々決勝まで進んでおり、何とか全国優勝したいと努力しております。中央で、北海道の高校男子はというと必ず函東高校と言われるそうです。ともすれば情熱を失いがちになりますが、やりぬく決心でありますので、先生方の叱咤御指導を切にお願い致します。

五稜中学校も満十歳との事、この十年の土台に、次の十年は、きつとすばらしい発展があるうと思います。それを願うからこそ、皆が、心から祝うのでありましょう。むずかしい教育の転換期にあつて、困難であろうとも、理想の教育をめざして飛躍の十年であるよう切望してやみません。

“むかし”

荻原ハル

ハイノ五稜中学校の萩原です。五ヶ月過ぎた今でもつい口をついて出てきます。五稜の空気を存分に吸い、生徒と共に育ってきた私は、無意識にそう言ってしまうのです。

想えば本当に楽しい八年間でした。昭和三十八年五稜に赴任したときは、前に立派なアパートが建ち並び、後に川が流れ、臥牛山を一幅の絵の様に鑑賞出来る空氣の澄んだ場所に建てられた新しい学校。何もかもがすばらしく思われ、この環境の中で生活する生徒は本当に幸せだと感じ乍ら、そこに育つ若い芽への責任感で緊張したものです。第一回生が三年生になり、まだ体育館は出来ていませんでしたが、正

面玄関と特別教室が増築されたばかりでした。分れ分れに勉強していた開校当時の苦労話を聞かされているうちに、ふと自分も五稜中の開拓者に仲間入りした様な錯覚を持ち、いつの間にか最初からいた人間になりきっていました。

至らないことの多かった私ですが、先生がた、お母さん、生徒の皆さんとも本当に人間としてお話ができ、心の深さにふれたように思われ、あの頃が一番懐しく思い出されます。特に四十三、四年母の会を担当したときは、お母さん達の子を愛する純粋さをこごとくに感じ、子を愛する故に我が子の通う学校を想う、そんなひたむきな母親の心に打たれたものです。親と教師がしつかり手をつないで子供を育てるという教育理念は理論の上では簡単なことですが、どちらからも脱ぎ捨て裸で接したとき、そして子供がその親の純な気持ちを肌身に感じるとき、始めて教育ということばが生まれるのではないかと考えさせられました。こういう意味でもこの頃は教師をしていて最も学ぶことが多かった時だと思っております。

四十年、中学校で初めてプールが出来、美しい水色の中で喜々として水しぶきを上げる子供達の姿と対象的に、消毒用の塩素でところどころ脱色したトレシャツを着、浄化用の珪藻土で手足を真白にした阿部先生の姿は、学ぶ者とそれを支える者のふしぎに調和した光景として頭に焼きついていきます。翌日遠きとおった水の中で泳ぐことが出来るように放課後機械を動かし、夜寝静まる頃に止めに行く。恐らく先生の手からは機械の錆と消毒の粉は夏の間中とれることはなかったのではないかと思います。私も初めての水泳指導、仕事の中で一番手の汚れない指導法の研究を分担し、誰もいないプールで手足を動かして

みたり、救助法の講習を受けたり、慣れない生活に夢中で取り組んでいたような気がします。浮くことも出来なかつた子が泳げるようになった、そんなとき体育陣集まつてはグラフに表わし喜び合つたものです。この夏休み、プールに出かけ、職員室とプール間の例の専用車が活躍しているのを見て、むかしが生きていたと一人で喜んできました。

時代の流れとともにクラブ活動にも大きな制約を受けるようになり、やつと軌道に乗りかけた練習を途中で打ち切ることが多くなりましたが、何が正しくて何が正しくないのかの論議は別として、子供達がクラブ活動に燃やす意欲は何にも代えがたく貴重で、そこから得る様々な体験は、これから豊かな人生を送るための大切な糧であるような気がします。担当させてもらつた体操部も、暖かい家庭と学校に支えられて、力一杯その能力を試すことが出来たように思います。大会の日、巾十糧の平均台から落ちまいとひきつるほどに緊張した子供の顔は優勝旗を手にしたとき、はじめて喜びに満ち、努力することの大切さ、頑張ることの尊さをしみじみと味わつてくれたのではないかと思います。体操を通した子供達との交わりは、私にとって生涯忘れ得ぬ思い出になっています。

機会あるごとに愛宕の窓から街並みを眺め、くつきりそびえている五稜郭タワーを見つけてはその辺りに自分のふるさと感じ、そして、ふるさとのやさしさを求めるとき、生徒と一喜一憂した五稜での生活が不思議な新鮮さでよみがえってきます。今では遠くから眺める私には、タワーも五稜中の一部になっています。田家の道もすっかり舗装され、校門前の苗木だった幼い木も大きく成長して何もかもが近代化してきた中で、今一度むかしをふりかえり、大きく発展してほしいも

のだと願わずにはいられません。

坂牧達夫

十周年記念を心からお祝します。十年の歳月に、しっかりと教育実践の根を生やし、伝統をかたちづくり、学校のたたずまいに風格をにじみ出した五稜中学は、いまや函館だけでなく、札幌ものいる札幌にまでその名が知られています。それは、時々々々学習指導に関するものであり、体育に関するものであり、教育環境、視聴覚教育、自主活動など、先生方の努力によつて実ってきた数々のものです。私は、いろいろな会合で五稜中学に勤務していたことを誇りをもってしゃべります。

ときどき、本当にたまにですが、函館に出張するとき、時間をさいて教大から亀田町に抜けるあのせまい田家町のバス通りを通るときがあります。ここはあの気の強いK君の家だ、ここは頑張り屋のA子の家だとひとつひとつ思い出しながら田家マーケットから田家湯越しに五稜中のレンガ色の校舎が見えてくると、心が軽く緊張するのを覚え、その胸のときめきと、見るたびに（そんなにくることはないのですが）りっぴになつていいる学校に心の安どを覚えて帰札するのです。

昭和三十八年四月、市内の中央から着任したとき、五稜中は開校二年で、十数人の先生方が学校づくりに激しい意欲をもやしていました。新設校の先生には、学校づくりと、環境の不備を越えて生徒を高める

高度の指導技術が要求されますが、五稜中の開校時には、沼山校長を頭にいただき、創造の意気はつらつとみなぎっていました。

私たちには、やるべきことがいっぱいありました。私は教科の關係もあつて学校環境づくりを担当し、湿地に加えて工事で荒れた前庭の整備をやりました。生徒から前庭の設計のアイデアを募集したり、全校生徒による川原からの砂利はこび、学級分担の花だんづくりなど生徒とともにひとつひとつ整えていきました。

新しい学校は金がかかります。沼山校長、藤川校長、と私のつかえた二代の校長先生にはずい分無理をいって、役所から材木をもらつていただいたり、樹木の寄贈を頼んだり、客土、芝生はりなどすすめしました。当時、菅原、蘇馬、門脇の各先生方と苦勞してとつた運搬技術を活用して、借りたトラックでビクビクしながら材木を運んだことも楽しい思い出となっています。

全校あげての努力によつて、二年で、ロータリー、芝生、花だん、植樹、自転車小屋などできあがりました。四十年に渡島管内の道德教育の研究会を五稜中でひきうけたときは、玄関先生、道德教育研究校としての体裁はできていたように思います。

今、この文を、当時のアルバムをめくりながら書いています。なつかしい先生方、生徒のひとりひとりを通して当時のできごとが浮かびます。苦しいことやいやなこともあったのですが、「記憶は写真であり、思い出は絵画である」のことばの通り、思い出されることは、すべて美しい、楽しいことばかりです。

五稜中が創設期を経て充実期に入っていることは、私にとつての思い出の前庭ひとつをみてもうかがえ知ることができます。ここまで高

められた先生方の実践に心から敬意を表し、これから二十年へむかつてますますたくましく成長していくことを願い、拙い文を送ります。

病める子と共に

渡辺 宏 平

昭和四十一年四月から四年間、みどり学園に勤務しましたが、その間、二、三の方を除いては、本校の皆さんとは年に数回より顔を合わせず、お名前と顔とが一致しないうちに転動し、誠に申し訳なく思つております。

しかし、その間我々や子供達に示された数々のご厚情を今はなつかしい思い出として感謝いたしております。

ちょうどその年は、学園の所屬が的中から本校に移管された時であり、職員も一名増しにはなりましたが、小規模校と同じで、一人数科目の担当となり、苦闘の連続が始まりました。病弱児用の教育課程があるものの、一日一時間授業可能、二時間可能、三時間可能というように個々に条件が違い、更にベツト学習あり、高校進学希望者あり、しかも入園すれば一年間迄の療養が必要という精神的不安に沈む子供達、加えて玄関や電話交換室を改造した教室での学習、またある時は一般患者と同室の所での授業等、数えきれない悪い条件下で生活して参りました。

しかし、子供達は開病と学習という仕事を暖かい家庭から離れて行なっているにも不拘、強い意志と努力をもって暮らしているのを見るにつけ、普通校に居る子供達の幸福をしみじみと感じないわけにはお

られませんでした。

従つて我々職員としても、微力でも、楽しみのある生活の子供達に与えたいものと考え、温室経営を考えたのが二年目の年でした。

栽培については勝野、望月両先生がベテランであつたことが幸いし、半年の苦勞を子供達としたお蔭か、秋の展示会には一般患者から多大の好評をいただき、子供達の喜びの瞳を見られた事は忘れ得ない思い出の一つでした。また、学園祭なども、医師、看護婦の協力で成果を挙げることもできました。

同時に、子供達のために数多くのご厚情を示してくれた方々のあることも忘れられない一つになっています。と角、片隅の方に置かれていて忘れられ勝ちな子供達のために、貴重な時間をさかれてご慰問された方々は、どの位子子供達を喜ばしたことか、そちらの方々への感謝の念を禁じ得ないところです。

今、新装なつた病室、条件の整つてきた学習室など、在勤中のそれとは比べられない状態を見て、あの病室から、学習室から、それぞれ、高校へ、実社会へと巣立つていった卒業生が、病気の再発することなく活躍してくれる事を祈つておのみです。

わが五稜の思い出

野々村 正 晴

「早く書け。何でもいいから書け。いくらく長くてでもいいぞ。」と幹事の永谷、金田大兄よりせき立てられ「ああ、もう一日が行つてしまうのか、ちょっと待ってくれ」と言いたくなるような私なりに忙しい毎

日、とうとうせっぱつまっていざ机に向かうと、丸で大文豪が後世に残る大作に苦吟するような大げさな気分がビタリと筆をおさえています。いっそ名前だけ一行書いておこうかと、やけくそな気も起さる所、まあ幹事さんの顔をつぶすこともなるまいと、ご免蒙つて自分勝手な五稜の思い出を筆まかせにつづらせていただきます。謹厳居士の検閲で没にならないければ幸いです。

十一年住みなれた的場を離れる時、あそこだけは行かない方がいいぞ、新設校で、はって歩くぞとおどかされて着任、沼山校長以下五稜第一期生の諸先生に迎えられ、あいさつをすませると「ああ、ピンポンをやる先生ですね。」英語教師の誇りは無残にも打ちくだかれました。歓迎会はまだ建設途上の校舎の一教室、いなり寿しの饗応に、物質よりもまず精神と思い知らされ、ハンサムな手伝いの学生さんかと思つた人が菅原先生で、頭のうすくなりかけたやけに威勢のいいおじさんが私より若い阿部先生、これはうかつに既成觀念で判断出来ない所と用心の心張り棒をしかりおさえました。間もなく教室での開校式、正式の名称函館市立五稜中学校として発足します。この校名は私には仲々いい感じで、田舎くさい田家中学校なら、競技会にも勝てなかつたのではないか、などと関係のないことまで関係づけたくなる位、市内で一番いい名前だと今でも思っています。

運動会、新設校によせる父母の期待と熱意にはびっくりしました。おおせつかつた庶務という役目柄、ご寄贈の領収書が飛ぶように出て行くのには只呆然、トラックのにつかつた反省会は未だに忘れられません。

スポーツ、強かったですね。中でも阿部、荻原（体操）、小川、岡

本（陸上）と体育教官の案いて行った伝統は、小規模な新設校ながら全市に風雲をまきおこしました。たとえば陸上競技大会といえ、運動神経のある生徒が、他のクラブからかり集められて活躍するのが不思議でない筈、五稜選手団は全部といていい位専門の陸上部員。いい校風が生まれました。この熱意に刺戟されて、私もとうとう八年間卓球部の顧問をつづけてしまいました。後半斎藤先生という若いパリの相棒を得て、四十四年の全市大会では女子団体が予選、決勝を通して無失点、個人戦も五稜同志で決勝戦という完全優勝は、私のこれからの生活では二度とないと思います。ついでに職体の卓球でも一度優勝旗をとりました。もっともその次の大会では連続優勝確実と、会場校なのをいいことにビデオテープまで体育館にすえつけて、コロリと準決で負けたのはお笑いでした。

英語教師としては、何と言っても学力別指導が先ず浮かびます。永谷、門脇、蘇馬の諸兄姉と何回重ねたか分からぬ教科部会。今、中教審答申で、早期選別、能力差別等が問題になっていますが、私達の『学力別』はあくまでも生徒の為という目標一本にしばって、色々と苦勞を重ねたことを今でも正しかったと信じています。

沼山、藤川、三ツ谷、梶原と強烈な個性をもった大校長のいたせいかどうかは知りませんが、道徳、放送とつづく研究指定校によく先生方は努力されました。しかし、生徒指導を離れた先生方とのつき合いは実に楽しく、中でも夏の研修旅行、冬の忘年会は、役目柄、諸先生に協力していただき、終始楽しいムードを作り出せたことを感謝しながら、ここには書けない珍芸、奇芸の数々を昼間の先生方の謹厳な顔とダブらせながらひとりニヤニヤすることさえあります。つきない思

い出に勝手気ままな筆運びで、ご迷惑をおかけした先生にはおわび申し上げ、五稜の発展と諸先生のご健康をお祈りして筆をおきます。





変調知らずしてハチマキ・ノーシン。母、妻の病の中、宝ツ子の誕生などの私ごと。

着任。教科書も持たざる無免許国語、試験管もない理科のナイナイ授業、いきなり学テの組合担当、体かカブかの歩み三年、忘れ得られぬ子らに対する小学教師からの退却の苦しみ、然し職場のアツタカさは今も尚、この時こそ、生涯最も楽しさをなつかしむ印象を心にきざみ込んでいる。呼ぶぞ―五稜よ。

笠井 敬一

九年前前に受け持った女の子から、ぼつかりお便りをいただき、上京して健康にめぐまれている旨の報に接したり、そろそろ適齢期になりましたが、誰れかい相手をお世話して…等々…かと思えば、前途洋々たるにつき安心して見ていてほしいという男の子からの一報など。私も三十五歳の坂を下った今、諸々の喜び、悲しみ、希望という人生の節（ふし）をかみしめている教え子達を、長くあたたかく見守ってやってやりたいと、思っているこのごろです。

そのひと頃

千葉 和衛

石塚 孝成

顕微鏡観察をした時、物が反対に見えるということは大体みんなの知れる所である。

先日、教生さんが顕微鏡操作を指導したときに、新聞の「の」の字を観察させた。ところが思いがけなくも二通りあることを生徒が発見した。今まではどの顕微鏡で見ても同じ見え方と思っていたが、顕微鏡によって違うことがわかった。このことは教生さんも、吾が校の理科教師陣も初めてわかったことだった。

以上、近況報告を兼ねて。

発展を祈る

武石 光正

五稜中学校十周年おめでとうございます。輝かしい実績をのこした十年間でした。

わずかな在職でしたが、私にとつては、かけがえのない一年間でした。

小学校から中学校へ転出してとまどつていた私は、明るく活動的な先生方の中で、中学校教育の方向を勉強させていただきました。感謝しています。発展を心から祈ります。

思い出

佐々 陽

五稜中ブル設立の話のあったとき、藤川校長と千代田小に行った際、市田校長がブルを市営として梁川町あたりにつくればと、その構想を語るのを相槌うつて承り、帰った晩、新聞発表、そのおかげで、校長は大狸で佐々は小狸、煮ても焼いても喰えないと、深沢先生に批評されたのがなつかしく思い浮かんでくる。校舎増築、五十分授業、道徳時間特

設等、めまぐるしい一年間、あまりよい教務ではなかったようだ。でも一年で深堀中へ移されると知ったとき、校長に食ってかかったことが、残っておられる先生方への思慕と共に、思い浮かべられる。長く勤めたい学校と職員の和であった。母校の発展を祈ります。

もう十年たちますか。

菅原 昭一

創設から五年、それはこの頃の社会以上に、一日一日と激しく学校が育ち変わっていったときでした。ちょうど文化部を担当し、雷鳴轟く入学式から、旧兵舎での数カ月、新校舎が川つぶちに形をなしていくようす、そして待望の新校舎で充実発展していく姿をカメラに納めてきました。

多くの困難にめげず明るくたくましくがんばった生徒たち、何かと助けて下さった父母のみなさん、温かい先生たち、どうしておられますか。

生徒の名前

土門 厚

全校生徒の中で何人位の生徒の名前を知る事ができるだろうか。担当学級の生徒、教科担当で行く学級の生徒、クラブ活動で知る生徒ぐらいなものです。草創の頃の校長先生はじめ全先生が、全校生徒の名を知っておられたことは、私には大きな驚きで、学校づくりの苦勞がしみじみ感ぜられました。全校、全校下の協力のもとで、一つ一つができたがっていく喜びをかみしめながら数多くの勉強をさせて貰い、楽しい日々を送り得た五稜中の三年間はいつまでも忘れられません。

四十一年度 プール完成

太田 秀雄

当時は市内でも最初のもので、完成は大変な喜びでした。先生方も「是非泳げなくては」と決心し、夏休み中にも毎日生徒と共に猛練習しました。生まれて初めての人も大勢いました。終に全員泳げるようになりました。みんなにここにして親しそうに水を眺めるようになったのは実にうれしいことでした。この年に、バックネットもできました。優秀な野球部の基礎が、この頃から培われていま

した。

開校十周年に寄せて

福寿末太郎

昭和四十一年四月から一年半お世話になりましたが、この間二代の校長に仕えました。生徒は全体として温和で自主性に富んでおり、家庭環境のよさもうかがわれました。また、先生方も和氣あいあい仕事に熱心でした。いろいろな思い出の中で印象に残っているのは、阿部先生にいわれ新設のサッカークラブの指導にあたったこと、藤川校長の創意性、「応能指導」など、全体的視野に立つ勉強でした。

鹿部より

松井 喜一

五稜中より離れて早いもので五年になります。はじめて郡部の学校勤務で戸惑うことも随分ありましたが、住めば都とか、環境に合わせて生活しております。

鹿部は、海あり、山あり、温泉ありで仲々よい所です。鹿部中と言えばスポーツの盛んな

学校であることを御存じと思います。実際に学校の伝統というものはおそろしいもので野球、柔道、相撲、卓球とその活躍には目をみはるものがあります。

伝統といえ、五稜中開校当時は、市内の各中学校に比べ十余年の開きがあったのですが、とに角、市民の皆さんに「五稜中ここであり」と知らしめるためにはどうしたらよいかと思案の結果、スポーツで売り出そうと、当時の先生方は、そりゃあ一生懸命でした。たしか、三年目だと思っています。中体連陸上競技大会で総合優勝したのです。先生方は勿論、市民の皆さんから五稜中が認識され、市内の各中学校からは「五稜強し」とびつくりされたものです。これも当時の先生、生徒、父兄の丸となった「やるぞ」の氣迫がむくわれたものと思います。

この十年、堂々の押しも押されぬ五稜中学校になったことを本当に嬉しく思います。紙面の都合で割愛しますが、更に今後の益々発展されることを期待して御祝い申し上げます。

窪田 肇子

創設十周年を迎えた歴史の深まりを心からお祝い申し上げます。

昭和三十七年から四十三年三月までの在職期間を省みて心に残っておりますことは、やはり創設間もない雑多とした中で、先生も生徒も父母も、学年を問わず組を問わず親しむ合い、一人一人が未来に広がる五稜中学の土台石となるために語り合い、汗を流したあの日のこと、あの人々のことのようにです。

青春の思い出

安井 孝

私にとつて青春の思い出といえば、新卒から六年間を過ごした五稜中時代のものばかりである。夜ごと我が婿となった宿直室、徹夜も楽しかった「大運動会」その他の共同作業、親身に力となつてくれた良き師、先輩、飲み仲間たち、私をアザラシみたいに狂わせてしまったブルー、どれ一つ忘れられない貴重な青春ばかりである。私もとうとうコブツきの身となつてしまつたが、当時の氣概だけは、いつまでも失わぬよう、心に誓っているのである。

十周年を お祝いして

斎藤 正之

御校十周年を迎えるにあたつて心からお祝い申し上げます。

想えば昭和四十二年四月から同四十五年三月まで丸三年間お世話になりましたが、私にとつては誠に貴重な年月でした。今かつての同僚の姿を思い浮かべながら書いています。

御校ならびに諸先生方がいよいよ御発展なさいますことと記念行事にあたつての御苦労に感謝しながら筆をおきます。

三上 力也

昭和四十年、福島町より五稜に赴任し、去つて、はや二年、早いものである。在職五年間という年月ではあつたが、夢中で過ごした時期であつた。赴任してすぐの年、道德教育の実践研究が始まり、三年目には全道大会、その後すぐ、放送教育の指定校となり、二年目に全道大会を引き受けるハードスケジュール。五年間毎年、研究授業、研究発表等におわれ、能力のない私は、準備や研究のため徹

夜をすること何度か。今おもえば、それも楽しく、張りあいのあるものであった。教師生活で有意義な一時期をなす想い出多き五稜時代として、長く記憶に残ろう。

桜井 恭子

十歳のお誕生、おめでとうございます。十年ひと昔。でもついこの間のように思い出されます。四月といっても冷たいみぞれまじりの雨と風、大川中学校の体育館での入学式で五稜中学校の誕生。二校舎に分かれての授業から中央校舎へ。廊下を利用しての集会や運動、授業時間をなんとか頼んで時間をもらってのフォークダンスの練習、開会式が終わったとたんに雨が降った運動会、五稜郭公園で熱戦をくりひろげた級対球技大会、写生遠足などなど。

今後更にご発展される事をお祈りします。

五稜の世間相場

竹内巖太郎

昭和三十八年に愛宕から五稜に移る時には

同僚から近代建築の校舎に入っていてうらやましいと言われ、昭和四十六年に湯川に移ると、五稜の生徒とは質が違うからと謙遜され、ゆきつけの床屋のおばさんからは、立派な先生が多いんでしょね、越境させても子供を入れたいと陳情される仕末。校舎、生徒、先生三拍子揃った五稜中学というのが、世間の通り相場らしいので、OBの一人として評判を傷つけてはならないと思えば、責任甚だ重大を感じるきようこの頃です。

藤原 孝一

東に古城を望む校舎、思い起こすと、通し教室での新任式、あれから早や十年、この間九年、私にとつて思い出多き生活だった。

個性豊かな校長、エピソード多き仲間、恒例の研究會、話題多い百足競走、研修旅行、徹夜の闘争議論等、思い出はつきない。さらに現代子との葛藤、あの悪童はどうしているだろう、何時か子供の父母となるだろう。本当に楽しかった九年。

十周年おめでとう。

みどり学園での三年

望月 年春

今にして思えば、病弱の何たるかも知らないで、本校は勿論、病院にも、大先輩の渡辺、勝野両先生にも、ご迷惑のかけつばなしの気ままな生活を送らしてもらいました。

このことは善悪は別として、私の教師生活に画期的な一ページを加えたといえます。

本校の諸先生の折りにふれての励ましのことばも心打つものがあり、今も胸にきざみこんでおります。

五稜中のますますの発展と、諸先生、卒業生の多幸を祈念致します。

佐々木肇生

秋即到枯葉の輪舞。八雲より愛をこめて、この拙文をあえて、五稜の末筆に加えられん事を希むや切。

〈遊樂部のデルタイや広く……〉校歌にもある如く、ここ山崎中学からの朝な夕焼けの美しさ、また格別。

殆ど何も知ってはいないんですよ、実は。へことばの選択で、苦しみ毎日が続いております。尤も英語及びそれ以外の、即ち日本語の難かしさです。

在函時代の諸先輩・患友達の影而らの御尽力により、大柄なくポストを守り抜いて居る現況です。

追憶

福士 重雄

五稜中学誕生十周年、早いものだとつくづく驚いて居ります。

柏野小の子どもたちを連れて、スッポンカッポンに水遊びにいつていたのもついこの間の様な気がします。新川の治水の不完全であった頃は学校の側は水遊びにもつてこいの所で、すぐ亀田の畑に接し、東部がこんなに発展するとは、今昔の感にたえません。

学校が出来て初めて通学させた頃は橋も満足ではなく、高圧線の下を通り畑の中を近道をして通学していました。それにしても今は函館圏の中心校として、大きなグラウンド、プールと近代設備化され、たくましい先生方の

力が、伸びいく地域の発展とともに、健康で、校訓の誠実、協調を柱に、歴代校長を中心に発展し、子どもたちは真理探究と地に足をつけ、大函館市として亀田町が合併された時は職員一丸の努力が五稜郭城跡が明治築城の最新を誇った様に函館の五稜中として近代に生き抜く中学生育成の輝かしい未来を夢見て居ります。一年間みどりにお世話になったのですが、先生方のスクラムと生徒の意気は大函館圏の中心としての基盤に洋々たるものを感じます。先生方の友情を憶い、なつかしい旅行、等思い出して居ります。十年を一期に今後の生々発展をいのります。

数下 寛

満十周年おめでとうございます。

私がまだ大川中学校に在学中、田家分教場として間借りしている生徒を見て、よそものが入ってきたような変な気持を持ったものですが、今考えて申しわけない気持です。

中学校を卒業し、現在の五稜中学校に就職した頃は、今のような体育館はなく、体育の授業、クラブ活動などは通し教室や玄関を、

体育館又は講堂の代わりに使用していたものです。学校教材や設備なども整っていませんでした。教職員の方々、父兄の方々の、学校を盛り上げていくとする協力があつたからこそ、現在のような五稜中学校が出来たのだと思います。

多数の五稜の卒業生も、今は、高校、大学へと進学し、卒業し、社会人として人生の波にもまれていることと思います。

私の職場として、又、弟妹の母校として、お世話になった五稜中学校が増々発展していきますよう、お祈り申し上げます。

藤崎 孝造

十周年記念おめでとうございます。

あれよ、あれよと思ううちに函館市のエリート校として有名になりましたね。諸先生方の努力とまじめな生徒の根性、熱心なPTA、と三拍子の揃ったチームワークが五稜中をここまで造り上げた事と確信し、感心致します。五年間の勤務中、毎日楽しく過ごした事を思い出し、懐しく目に浮かびます。
・益々の御発展を祈ります。五稜ガンバ!!

武田 政雄

十周年記念、心からお慶び申し上げます。

函館商業高校より着任以来五年間学校事務に従事、教育行政手腕卓越の藤川、三ツ谷、梶原校長の下、熱烈な諸先生の指導、生徒一丸となり、放送教育、学業、スポーツに今や道内屈指の優秀校となり、欣快の至りです。

思うに事務室は学校の窓口で、顔、目、耳であり、近代学校経営の情報提供等に外部に対する代表的存在であり、教員の直接教育活動以外の多種多様の間接業務を処理しています。

本校の教育目標達成に側面的に献貢すべき使命感を新たにし、今後益々のご発展を祈念致します。

昭和43～45年度

母の会寄贈品

1.	ピアノ	1
2.	Riso Fax	1
3.	OHP	2
4.	Screen	1

¥ 518,272

十年のあゆみ

年月日	事項
昭和三六・四・一	函館市立大川中学校田家分教場として発足。 大川中、三学級、中央中、四学級。
四・六	第一回入学式（男子一六七名 女子一三七名 計三〇四名） （一年生だけの学校）
四・二六	父母と先生の会発足。
五・二六	生徒会発足。初代会長渡利三郎君。 （他校にひけをとらないように）
六・一七	新校舎建設地鎮祭。
七・二三	（やつと本拠のめどがついた） 大川中三学級を中央中学校舎に収容。 （別居生活に終止符）
七・二七	校舎第一期工事着工。
八・一八	（僕らの学校が出来るぞ！） 母の会結成。初代会長及川キリ氏。
九・二三	第一回運動会五稜郭公園で挙行。 （雨にたたられました。生徒が出場すると 観覧席は父兄だけ）
一一・一五	第一期工事検定。教室一四、放送室、保健室。

年月日	事項
昭和四〇・四・一	（新設校、本当に「苦勞様でした」） 藤川光夫校長、深堀中から着任。
八・七	健康保健委員会結成。
九・八	女子生徒の標準服制定。 （他校に見られない斬新なスタイル）
一一・一	第五期工事検定（美術室、音楽室、水洗便所）
昭和四一・三・一五	第三回卒業式。（男子一三八名 女子一三九名 計二七七名）
四・一	みどり学園中学部二学級、的場中から移管。
七・二七	函館市道徳指定校委嘱 昭和四三年まで。 プール完工。
一〇・五	（ライトブルーに映える美しいプール。 さあ、水しぶきをあげて） 北海道道徳研究大会。
昭和四二・三・一五	第四回卒業式（男子一六三名 女子一四三名 計三〇六名）
三・二四	開校日を地鎮祭の六月十七日と決定。
五・二五	藤川光夫校長、道教委学校教育課長に転出。 （五校中に新風を吹きこんでくれました）

昭和三七・三・六	一一・一九 一一・二二 校舎移転式並びに第一回文化祭。 校章制定。五稜郭を形どり、花で文化、蕾で若い力を表現。
四・一	校名「函館市立五稜中学校」と決定。 初代校長沼山吉之助氏。
四・二	独立開校式挙行。
一一・二六	体育館第一期工事検定。
昭和三八・三・二七	第二期工事検定。（教室四、職員室、校長室、事務室、宿直室、用務員室、相談室、教材室二、職員便所）
四・六	第三回入学式。 〈これで全学年がそろいました〉
一〇・一〇	校歌、校旗制定。
一一・二四	第三期工事検定。（理科室、家庭科室、暗室、展示室、ミシン準備室、付属廊下）
昭和三九・三・一〇	第一回卒業式挙行。（男子一六二名 女子一四八名 計三一〇名） 〈不自由にめげず頑張りました〉
一〇・二八	同窓会結成。初代会長藤田真司君。
一一・二八	第四期検定。（技術室、水洗便所）
昭和四〇・三・一五	第二回卒業式。（男子一九二名 女子一三八名 計三三〇名）
三・二二	初代校長沼山吉之助氏退職。

六・二二	三ツ谷毅一校長、市教育課長から着任。
一〇・一一	北海道道徳研究大会。
一〇・三〇	函館市道徳研究指定校発表。
昭和四三・一・二三	体育館増築工事検定。
四・一	学校放送研究校委嘱 昭和四五年まで。
三・一五	第五回卒業式（男子一六三名 女子一二四名 計二七七名）
七・二二	温室完成（母の会寄贈）
八・一九	テレビ教育始まる。
一〇・一一	〈テレビには一〇チャンネルもあつたんだ〉 三ツ谷毅一校長、市教育長に転出。
一〇・一九	〈修学旅行で生徒にお茶のサービスもしてくれました。温かい先生でした。写真参照〉
一一・一	第八回道南放送研究大会。
昭和四四・三・一五	梶原四郎校長、船見中から着任。
一〇・八	第六回卒業式（男子一四四名 女子一三四名 計二七八名）
昭和四五・三・一四	第二回道南放送研究大会北海道大会。
昭和四六・三・一五	第七回卒業式（男子一五八名 女子一二八名 計二八六名）
一〇・一六	第八回卒業式（男子一三四名 女子一二四名 計二五八名）
	開校十周年記念祝典。

1. 職業を生涯 — 正しい職業のあり方と責任の重さを教へ実行力をつける
2. 協調性を育てる生徒 — 礼儀をわきまをわいて心を通わせ協力し望みの目標を達成する
3. 真理を探究する生徒 — 自由の心を開放し学問を求め正しい合理的な思考をする
4. 健康で強い生徒 — 心身の健康を留意し気力、体力を高めいっしょに努力をすすめる
5. 社会的視座の広い生徒 — 郷土と祖国を愛し平和な文化を尊重する

1866

教育目標

「誠実、協調、真理探究」

- 一、自ら学びとろうとする意欲的態度をもち、誠実にことを実行する生徒
- 二、礼儀を重んじ情操豊かで、協調性にとむ生徒
- 三、心も身体も健康で、自ら喜んで働くべからず強い生徒
- 四、正しい思考と判断に基づいて、合理的にものごとを処理できる生徒
- 五、郷土や国家に対する理解と愛情をもち、文化と平和を愛好する生徒

校歌

作詞 小島 昌平
作曲 酒井 武雄

一、 ひんがしに
たなわなる
若人の
水上に
新しき
大いなる

二、 さくら花
友がきの
うち鳴らす
ひとすじに
築きゆく
ああとわに

古城いだきて
五稜が丘は
息吹に満ちぬ
ふるきをたずね
光に立ちて
力伸ばさん

しるしと仰ぎ
堅く結びて
自主の鐘の音
まことを勧め
理想のすがた
われら栄えあれ

昭和四十六年度 職員一覽

職名	氏名	着任年月日	教科	学年	分校	課務	備考
校長	梶原 四郎	四三・二・一	英	A	総務	ケバ フトス	
教諭	村上 健介	四四・四・一	数	B	教務	演劇	
	小西 孝男	四五・五・一	英	A	図書	音楽	
	主藤 節子	四一・四・一	理	C	施設	理科	
	米田 忠夫	四一・四・一	英	D	図書	音楽	
	蘇馬 辰郎	三八・四・一	音	E	文書	バレエ	
	村田 倖子	四六・四・一	社	—	教務	文芸	
	三十刈 智一	三八・四・一	国	—	図書	文芸	
	本堂 潤悦	四三・四・一	理	—	文書	文芸	
	笠島 寿泰	四二・四・一	技	A	文書	文芸	
	田嶋 靖彦	四二・四・一	理	A	文書	文芸	
	進士 継昭	四四・四・一	美	B	文書	文芸	
	金田 豊秀	三八・四・一	国	C	文書	文芸	
	大平 元昭	四六・四・一	数	D	文書	文芸	
	泉 良子	四六・四・一	保体	E	文書	文芸	
	川原 エイ子	四五・四・一	国	F	文書	文芸	
	永井 太郎	三八・四・一	音	—	文書	文芸	
	館洞 光宏	四四・四・一	社	—	文書	文芸	
	永谷 嘉一	三六・四・一	英	—	文書	文芸	
	岡本 嘉一	四〇・四・一	理	A	文書	文芸	
	糸川 俊郎	三九・四・一	保体	B	文書	文芸	

職名	氏名	着任年月日	教科	学年	分校	課務	備考
教諭	金崎 絃一	四二・一〇・一	数	C	文化	水泳	
	滝村 浩平	四一・四・一	技	D	文書	テニス	
	佐々木 雄幸	四五・四・一	社	E	教務	バレエ	
	門脇 初代	三八・四・一	英	F	生活	演劇	
	成田 恭子	三七・四・一	家	—	施設	家庭	
	保坂 武道	四二・四・一	国	—	生活	野球	
	斎藤 正宏	三九・四・一	数	—	生活	野球	
	大福 栄一	四四・四・一	国	—	生活	野球	
	長尾 敬子	四四・四・一	国	—	生活	野球	
	遠藤 一郎	四五・四・一	国	—	生活	野球	
	広沢 博正	四五・六・一	国	—	生活	野球	
	林 俊夫	四六・五・一	国	—	生活	野球	
	山田 孝子	四四・四・一	国	—	生活	野球	
	高橋 市雄	四六・四・一	国	—	生活	野球	
	柳沢 美代	四五・四・一	国	—	生活	野球	
	服部 邦子	四六・九・一	国	—	生活	野球	
	高田 広栄	四六・四・一	国	—	生活	野球	
	木村 照江	四三・五・一	国	—	生活	野球	
	沢村 佐次郎	四六・一〇・一	国	—	生活	野球	
	藤井 光雄	四六・一〇・一	国	—	生活	野球	

学 校 概 観

位 置 函館市田家町5番17号

(電話㊦3458)

校 地 16,634.6㎡

校 舎 4,400,121㎡

校 長	教 諭	養 教	事 務	用 務	夜警員	計
1	31	1	3	3	1	40

学 年	1	2	3	計
学 級 数	5 (み1)	6 (み1)	6 (み1)	17 (み3)
在 籍 数	214 (11)	241 (9)	237 (15)	692 (35)

※みどり学園 (病弱)

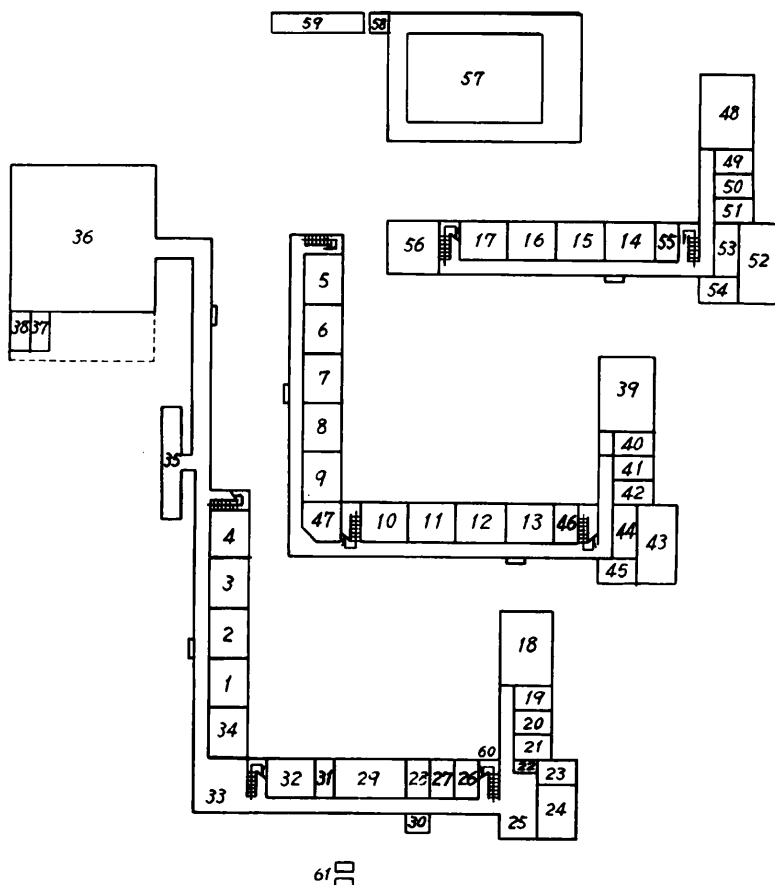
函館市五稜郭町38番3号 五稜郭病院内 (電話㊦1760)

各年度学級数・生徒数・卒業生数

() 内はみどりを含む

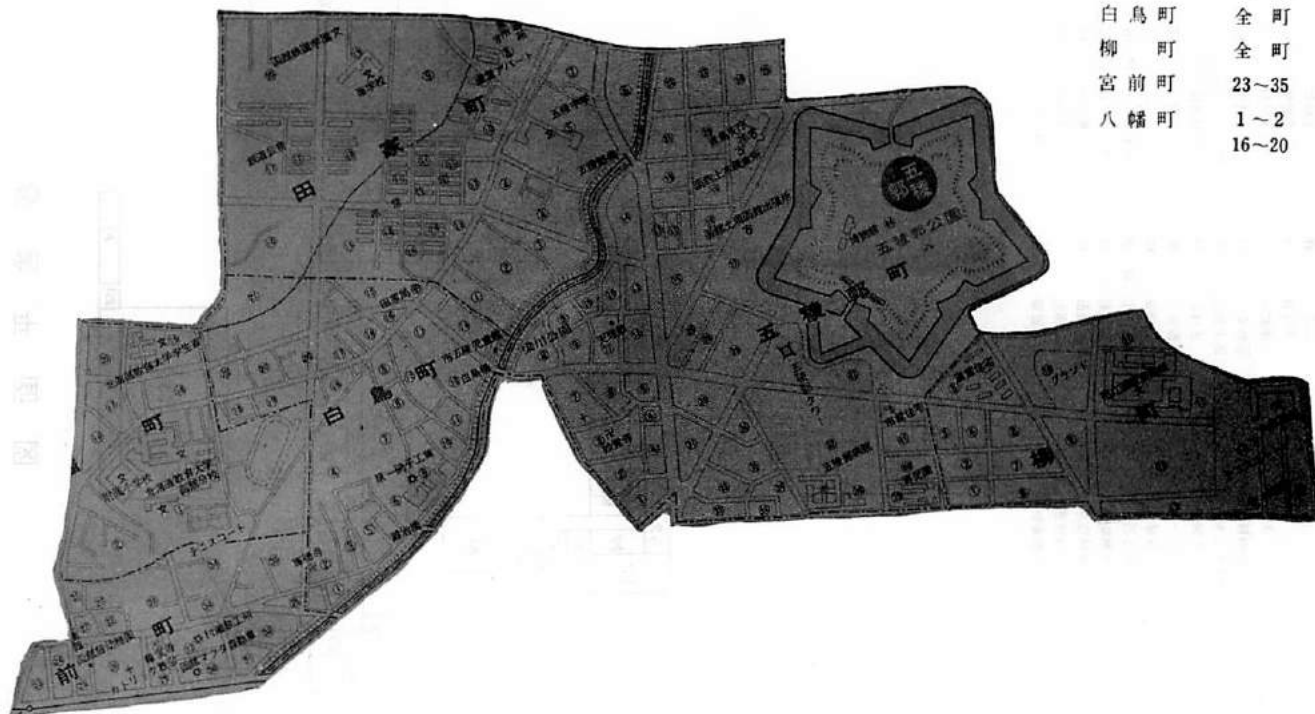
年度	学 級 数	生 徒 数	卒 業 生 数		
			男 子	女 子	合 計
36	7	304			
37	12	617			
38	19	899	162	148	310
39	19	885	192	138	330
40	19	834	138	139	277
41	19 (21)	843(865)	159 (163)	139 (143)	298 (306)
42	19 (21)	818(841)	158 (163)	109 (114)	267 (277)
43	19 (21)	817(835)	142 (144)	128 (134)	270 (278)
44	19 (22)	785(819)	155 (158)	124 (128)	279 (286)
45	18 (21)	741(772)	131 (134)	117 (124)	248 (258)
46	17 (20)	699(728)	総 数 1,237 (1,254)	1,042 (1,068)	2,279 (2,322)

校舎平面図



- | | | |
|-----------------|--------------|------------|
| 1～17 普通学級 | 31 放送室 | 49 同準備室 |
| 18 技術室 | 32 保健室 | 52 家庭科室 |
| 19 同準備室 | 34 視聴覚室 | 53 家庭科室 |
| 20・21・35・41・42・ | 36 体育館 | 54 同準備室 |
| 50・51 生徒用便所 | 37・38 生徒用更衣室 | 55 生徒会室 |
| 22 物置 | 39 美術室 | 56 図書室 |
| 23 会議室 | 40 同準備室 | 57 プール |
| 24 用務員室 | 43 理科室 | 58 機械室 |
| 25・33 生徒用玄関 | 44 同展示室 | 59 管理室・更衣室 |
| 26 脱衣室 | 45 同準備室 | 60 職員用便所 |
| 27 校長室 | 46 相談室 | 61 温室 |
| 28 事務室 | 47 教材室 | |
| 29 職員室 | 48 音楽室 | |

通学区域図



田家町	全町
五稜郭町	全町
白鳥町	全町
柳町	全町
宮前町	23~35
八幡町	1~2 16~20

歴代校長

代	発令年月日	氏名	前任校	転退職年月日	転任先
初代	昭和三七・四・一	沼山吉之助	中央中	昭和四〇・三・三一	退職
第二代	昭和四〇・四・一	藤川光夫	深堀中	昭和四二・五・二五	道教委学校教育課長
第三代	昭和四二・六・一	三ツ谷毅一	学校教育課長	昭和四三・一〇・一〇	函館市教育長

旧職員一覽

氏名	職名	前任校	転退職年月日	転任先
井上豊	教諭	旭中	三九・四・一	若松小
西谷富士雄	〃	潮見中	四五・四・一	旭中
阿部光房	〃	旭中	四五・四・三	市青少年 対策課長
平沼靖雄	〃	港中	四二・四・一	松前中
千葉和衛	〃	八幡小	三九・四・一	千代ヶ 岱小学
菅原昭一	〃	愛宕中	四一・三・三	学芸大学 付属小
松井喜一	〃	大川中	四二・四・一	鹿部中
桜井恭子	〃	亀尾小	四六・三・三	潮見中
吉田ヤエ	養教	高盛小	三九・四・一	港中
藤原孝一	教諭	中央中	四六・三・三	の場中

氏名	職名	前任校	転退職年月日	転任先
奥寺明	事務職員	新任	四一・四・一	渡島地方 教育局
武田政雄	〃	商業高	四六・三・三	深堀中
藪下寛	主事	新任	四三・七・一	東高校
上杉広子	〃	常盤小	四五・四・一	上湯川小
和田秀子	〃	松川中	四六・九・三	市教育 研究所
荒谷ミツ	〃	八幡小	四三・四・五	退職
沖野喜久雄	〃	松風小	四〇・五・一	港中
堤勇	〃	新任	四〇・五・一	北高校
杉村つや	〃	幸小	三九・三・五	松川中

三七・四・一	野々村正晴	教諭	的場中	四五・四・一	新川中
〃	石塚孝成	〃	大川中	四〇・四・一	木古内
〃	窪田 暉子	〃	新川小	四三・四・一	第一中
〃	笠井 敬一	〃	中島小	三九・四・一	千代ヶ
〃	小川 智博	〃	弥生小	四〇・三・三	新川中
三八・四・一	安井 孝	〃	新任	四四・四・一	東高校
〃	坂牧 達夫	〃	中央中	四二・三・一	八雲中
〃	竹内巖太郎	〃	愛宕中	四六・三・三	松山教習局
〃	荻原 ハル	〃	船見中	四六・三・三	湯川中
〃	土門 厚	〃	的場中	四一・四・一	愛宕中
三九・四・一	武石 光正	〃	柏野小	四〇・四・一	知内小中
〃	埴山 祥子	養教	新任	四四・四・一	学校長
四〇・四・一	佐々 陽	教諭	大川中	四一・四・一	新川中
〃	三上 力也	〃	福島小	四五・四・一	柏木小
四一・四・一	望月 年春	〃	臼尻中	四四・四・一	深堀中
〃	福寿末太郎	〃	的場中	四二・四・一	日喜が乐
〃	渡辺 宏平	〃	東川小	四五・四・一	新川中
〃	勝野 一生	〃	大沼中	四四・四・一	湯川中
〃	太田 秀雄	〃	旭 中	四二・四・一	日喜が乐
四二・四・一	斎藤 正之	〃	湯川中	四五・四・一	新川小
四四・四・一	富士 重雄	〃	松風小	四五・三・三	金原小中
〃	佐々木峰生	〃	光成中	四五・三・三	学校長
三六・四・一	榊田 美代	主事	中央中	四二・四・一	白神小
					港 小
					山崎中
					深堀中

三八・三・一	庄司 三郎	谷地頭小	四四・七・一	千代ヶ
三八・二・三	日野口一男	愛宕中	四四・六・三〇	柏野小
四〇・五・一	藤崎 孝造	湯川中	四五・四・四	大森小
四四・七・一	熊倉 利典	巴 小	四六・四・一	港 小
〃	大竹 義勝	船見中	四六・一〇・一	柏野小

父母と先生の会役員

役	氏名	職	氏名	職	氏名
昭和三六年度	鈴木 義浄	会長	棚池 神治	会長	筒井 義定
〃	谷岡 純海	副会長	〃	副会長	野崎 悦郎
〃	角田 亮治	〃	笹島 吉平	〃	池田 裕司
〃	又坂 日出生	〃	葛城 喜三松	〃	柴田 裕司
昭和三七年度	鈴木 義浄	会長	棚池 神治	会長	山口シズエ(母の会長)
〃	谷岡 純海	副会長	〃	副会長	〃
〃	角田 亮治	〃	笹島 吉平	〃	〃
〃	又坂 日出生	〃	葛城 喜三松	〃	〃
昭和三八年度	鈴木 義浄(八月退任)	会長	棚池 神治	会長	筒井 義定(七月退任)
〃	又坂 日出生	副会長	〃	副会長	〃
〃	谷岡 純海	〃	笹島 吉平	〃	〃
〃	角田 亮治	〃	葛城 喜三松	〃	〃
昭和三九年度	笹島 吉平(八月就任)	会長	棚池 神治	会長	今野 汀子(母の会長)
〃	千葉 順亮	副会長	〃	副会長	〃
〃	宮下 昌三	〃	菅原 道雄	〃	〃
〃	笹島 吉平	〃	菅原 道雄	〃	〃
昭和四〇年度	笹島 吉平	会長	棚池 神治	会長	〃
〃	石田 政治	副会長	〃	副会長	〃
〃	国立 亨太郎	〃	山口シズエ(母の会長)	〃	〃

体育クラブの足跡

種別	年度	S 38	39	40	41	42	43	44	45	46
陸上	男	○	1	1	2	1	2	2	1	
	女	①	3	3	3	3				
	総合	2	2	1	2	1	3	2	2	
体操	男	①	3	1	1	1	2	2		1
	女			②	2	1	1	1	2	1
バレー	男	○				1	3	3	3	
	女	○		3			2	3		
バスケット	男			○						
	女			○						
卓球	男	②		3		2	3			2
	女	②	1	1	2		1	1	1	
テニス	男			○		3		1		
	女					○	2	2		
水泳	男				②	3	2	2	2	2
	女				○			1	1	2
野球		○					3		2	1
サッカー						○		3		3
柔道					○		3	2	3	
スキー				②	2	1	2			

○ - 初出場 1 - 第1位 2 - 第2位 3 - 第3位

歴代校長

代	氏名	前任校	転退職年月日	転任先
初代	沼山吉之助	中央中	昭和四〇・三・三一	退職
第二代	藤川光夫	深堀中	昭和四二・五・二五	道教委学校教育課長
第三代	三ツ谷毅一	学校教育課長	昭和四三・一〇・一〇	函館市教育長

旧職員一覽

氏名	職名	前任校	転退職年月日	転任先
井上 豊	教諭	旭中	三九・四・一	若松小
西谷富士雄	〃	潮見中	四五・四・一	旭中
阿部 光房	〃	旭中	四五・四・三	市青少年 対策課長
平沼 靖雄	〃	港中	四二・四・一	松前中
千葉 和衛	〃	八幡小	三九・四・一	千代ヶ 小
菅原 昭一	〃	愛宕中	四一・三・三	学芸大学 付属小
松井 喜一	〃	大川中	四二・四・一	鹿部中
桜井 恭子	〃	亀尾小	四六・三・三	潮見中
吉田 ヤエ	養教	高盛小	三九・四・一	港中
藤原 孝一	教諭	中央中	四六・三・三	の場中

氏名	職名	前任校	転退職年月日	転任先
奥寺 明	事務職員	新任	四一・四・一	渡島地方 教育局
武田 政雄	〃	商業高	四六・三・三	深堀中
荻下 寛	主事	新任	四三・七・一	東高校
上杉 広子	〃	常盤小	四五・四・一	上湯川小 市教育 研究所
和田 秀子	〃	松川中	四六・九・三	
荒谷 ミツ		八幡小	四三・四・五	退職
沖野喜久雄		松風小	四〇・五・一	港中
堤 勇		新任	四〇・五・一	北高校
杉村 つや		幸小	三九・三・五	松川中

三七・四・一	野々村正晴	教諭	の場中	四五・四・一	新川中
〃	石塚孝成	〃	大川中	四〇・四・一	木古内
〃	窪田 曜子	〃	新川小	四三・四・一	第一中
〃	笠井 敬一	〃	中島小	三九・四・一	千代ヶ
〃	小川 智博	〃	弥生小	四〇・三・三	新川中
三八・四・一	安井 孝	〃	新任	四四・四・一	東高校
〃	坂牧 達夫	〃	中央中	四二・三・一	八雲中
〃	竹内巖太郎	〃	愛宕中	四六・三・三	桂山教育局
〃	荻原 ハル	〃	船見中	四六・三・三	湯川中
〃	土門 厚	〃	の場中	四一・四・一	愛宕中
三九・四・一	武石 光正	〃	柏野小	四〇・四・一	知内小
〃	婦山 祥子	養教	新任	四四・四・一	新川中
四〇・四・一	佐々 陽	教諭	大川中	四一・四・一	柏木小
〃	三上 力也	〃	福島小	四五・四・一	深堀中
四一・四・一	望月 年春	〃	臼尻中	四四・四・一	日吉が丘
〃	福寿末太郎	〃	の場中	四二・四・一	新川中
〃	渡辺 宏平	〃	東川小	四五・四・一	湯川中
〃	勝野 一生	〃	大沼中	四四・四・一	日吉が丘
〃	太田 秀雄	〃	旭 中	四二・四・一	新川小
四二・四・一	斎藤 正之	〃	湯川中	四五・四・一	金原小
四四・四・一	福士 重雄	〃	松風小	四五・三・三	白神小
〃	佐々木峰生	〃	光成中	四五・三・三	港 小
三六・四・一	神田 美代	主事	中央中	四二・四・一	山崎中
			深堀中		

三八・三・一	庄司 三郎	谷地頭小	四四・七・一	千代ヶ
三八・二・三	日野口一男	愛宕中	四四・六・三〇	柏野小
四〇・五・一	藤崎 孝造	湯川中	四五・四・四	大森小
四四・七・一	熊倉 利典	巴 小	四六・四・一	港 小
〃	大竹 義勝	船見中	四六・二〇・一	柏野小

父母と先生の会役員

役職氏名	昭和三六年度	昭和三七年度	昭和三八年度	昭和三九年度	昭和四〇年度	昭和四一年度	昭和四二年度	昭和四三年度	昭和四四年度	昭和四五年度	昭和四六年度
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	角田 亮治	角田 亮治	角田 亮治	角田 亮治	角田 亮治	角田 亮治	角田 亮治	角田 亮治	角田 亮治	角田 亮治	角田 亮治
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生	又坂 日出生
役職	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
氏名	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海	谷岡 純海
役職	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長	会長
氏名	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄(八月退任)	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄	鈴木 義浄
役職	副会長	副会長									

体育クラブの足跡

種別	年度	S 38	39	40	41	42	43	44	45	46
陸 上	男	○	1	1	2	1	2	2	1	
	女	①	3	3	3	3				
	総合	2	2	1	2	1	3	2	2	
体 操	男	①	3	1	1	1	2	2		1
	女			②	2	1	1	1	2	1
バ レ ー	男	○				1	3	3	3	
	女	①		3			2	3		
バスケット	男			○						
	女			○						
卓 球	男	②		3		2	3			2
	女	②	1	1	2		1	1	1	
テ ニ ス	男			○		3		1		
	女					○	2	2		
水 泳	男				②	3	2	2	2	2
	女				○			1	1	2
野 球		○					3		2	1
サ ッ カ ー						○		3		3
柔 道					○		3	2	3	
ス キ ー				②	2	1	2			

○ - 初出場 1 - 第1位 2 - 第2位 3 - 第3位

あとがき

がら思い起こしています。

斎藤

十年ひと昔とか、五稜も脱皮の時を迎えた。古い殻から脱けいで五稜で結ばれた人々により築かれたよりよき伝統は更に深まり、逞しく息づき、生き生きと脈うち、発展への一步を辿っている。

この時、あらためてこの流れを意義深く見つめるために小冊子をまとめたが、限られた予算の中で、意を尽くすには誠に不十分であることを残念に思う。

村上

十周年記念誌の編集を頼まれ、一番長く五稜の空気を吸ったものとして、OK。一つ頑張ってみようと意気込みはよかったものの、ドズばかり踏んで村上、三十刈、金田、斎藤の諸氏に頼りっぱなし。

この小冊子が五稜中十年の思い出の一端になればと念じております。

多忙の中を原稿を寄せられた方々に厚く御礼申し上げます。

永谷

編集委員

村上

三十刈

永谷

金田

斎藤

函館市立五稜中学校 10周年記念誌

印刷	昭和四十六年十月十五日
発行	昭和四十六年十月十六日
編集者	函館市立五稜中学校 十周年記念誌編集委員会
発行者	梶原四郎
印刷所	函館市中島町20番13号 ばうに印刷